

平成 24 年度における学校規模適正化推進計画説明会の実施状況について（報告）

1. 来原小学校区（高宮町：来原小学校 P T A ・来原地区コミュニティ連絡協議会）

- ① 開催日時：平成 24 年 7 月 5 日（木）20:00～21:45
- ② 参加人数：42 名
- ③ 説明内容

教育長から	<p>4 月 28 日に教育長を拝命した。適正化計画については、当時の学校現場で聞いているし、施策の連続性も必要で、この適正化計画を進めていきたい。計画は 5 年間となっているが、行政主導で強引に進める性格の計画ではない。学校教育の実践は、学校・地域・保護者の合意形成が必要で、合意に則り進めたい。</p> <p>学校統合は、経済効率より子ども達により良い環境を提供することを優先させた計画である。</p> <p>強引に進めるのではなく、地域・保護者の意見を受け止め、合意形成のできた地域から進めたい。計画期間は 5 年となっているが、柔軟に対応したい。</p>
教育次長から、経過の説明	<p>平成 23 年度は計画の周知の年度と位置づけ、13 小学校全ての PTA で 468 名の参加を得て説明。19 の振興会で 304 名の参加を得て説明会を開催。</p> <p>要望意見に基づき、市内の共通課題等を整理・分析。24 年度は、さらに丁寧な説明を行い、保護者・地域の理解を得て、統合の準備委員会を設置いただき、実質協議に入りたい。</p> <p>説明会での市内共通課題として、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none">① 財政的理由で統合するのではないか？② 少子化対策・人口増対策・子育て支援策の充実③ 統合後の通学対策④ 統合後の放課後児童保育対策 <p>これに対しては、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none">① 財政的な理由について存在することは否定しない。現在少子化が大きく進んでいるが、児童生徒数の減少に対して、学校・教職員数が減少しないと国が考えている。

	<p>② 市の施策全てが、人口増対策の施策であるといっても過言ではない。企業誘致も着実に進み、定住促進団地や神楽婚活などユニークな施策も展開している。即効性のある事業が無いのも事実。</p> <p>③ 通学は、現在 6 町・13 小学校で異なっている。合併 10 年を機に市内統一をしたい。遠距離通学の財源としては、統合後 5 年間しか国県の補助金がない。持続可能な制度を構築したい。小学校では計画にあるように 40 分を満たすため、3km 以上を遠距離通学で検討している。冬場対策も検討している。公共交通機関がない地域は、スクールバスでの対応を検討している。</p> <p>④ 放課後児童保育については、統合校の近くに希望する児童が入所することができる規模の施設を整備することが基本である。</p> <p>⑤ この案は教育委員会での原案であり、今後、市長との協議、準備委員会との協議で決定していく。</p> <p>昨年の説明会において来原地域で出た、統合校の選考に関する資料は別紙のとおり。</p>
--	--

④ 会場からの質問・意見の概要

意見・質問の主旨	回 答
現在、市内で合意が得られている地域はあるか？	準備委員会設立はない。早く進めてほしいという意見をいただいている地域はある。
学校統合には財政負担を軽減する目的があるのではないか？具体的には敷地の賃借料。	小中学校の義務教育に要する費用は、基本的には、国が地方交付税等の仕組みで負担している。市町独自の学習補助員などについては、市町の負担となる。学校敷地を借りている場合がある。統合により廃止される学校において、地域で活用されないとすると、返却することとなる。
小中一貫校を念頭に置き、元高宮高校を活用することはできないか？	高宮高校の活用には、以下の課題がある。 ① 耐震基準の課題：耐震基準が変更された頃に建築されていて、校舎全てが新耐震基準で建築されていないのではないか？ ② 高校生と小学生の身体の高さによる学校のつくりの課題：一例をあげると、階段の蹴上がり

	<p>高が違い、階段をすべて改築する必要がある。</p> <p>③ 学校給食を配送するためのリフト・エレベーターを設置する必要がある。</p> <p>計画では市内4地域で統合計画があり、財政負担を後年度に残さないため、現校舎の活用で考えた。</p> <p>小中一貫校は、国で専門委員会を設置し議論している。市町にとっては、小中一貫校にする経済的メリットは少ない。現在取り組んでいる小中連携を充実していくことが効果的である。なお、今後とも国や県の動向をみて柔軟に対応していきたい。</p>
<p>甲田中学校を耐震改修しているということは、中学校の統合校として、甲田中学校が候補に挙がっているのか？</p>	<p>適正化推進計画においては、中学校は2校で、位置は示していない。教育委員会においても、中学校の位置については白紙の状態である。</p> <p>学校の耐震化については、学校統合に関係なく、子供たちの安全・安心を守るため、耐震調査をして順次耐震工事を実施している。向原中学校・吉田中学校の耐震工事を終了し、耐震性のない甲田中学校の耐震工事を行っている。</p>
<p>昨年の説明会では、「統合校は船佐小学校で5年後」に決まっているような説明であった。今年は「地域の合意がないと行わない」という説明である。何をもって合意があったと判断されるか？</p>	<p>昨年の説明の仕方が悪いということであればお詫びする。統合校の選択を地域に委ねることは、様々な問題を引き起こすため、教育行政で示させてもらった。計画書の期間設定については、期間のない計画はありえないので5年と定めているが、計画書にあるように、地域の理解と協力を得て進めることが大原則で強引に進めることはない。</p> <p>合意の判断については、100%の賛成は無いものと考えている。説明会で皆様の意見の大勢が、次の段階に進んでも良いという雰囲気になれば、準備委員会の立ち上げを提案させていただきたい。</p>
<p>昨年の説明会以降情報がない。準備委員会委員の人选や、委員会の開催頻度など情報発信して欲しい。市のホームページに情報があるといわれても、見る環境がない。</p>	<p>市のホームページや学校に、昨年の説明会での質疑応答など掲載している。市の広報にも節目節目に情報発信している。ご覧いただきたい。</p>
<p>小学校が小さいことが悪いのか？少人数だからこそきめ細やかな教育ができています。学習補助員が付くとい</p>	<p>小規模だからこそ、子ども達に目が行き届くメリットもある。規模によりそれぞれのメリットがある。検討委員会においても、実際に視察をされて、規模</p>

<p>われても、どの程度つけてもらえるのか？</p>	<p>の議論が行われた。そうしたことを総合的に考えられて、「ある程度の規模、20～30名規模」が効果的で効率的な教育環境であるとの結論になった。学習補助員や教育介助員については、配置基準を設けて配置をしている。市独自施策であり未来永劫に続くものではない。ただし、計画書において適正規模が20～30名としているので、31名以上の学級には少人数指導ができる体制を整備するため、学習補助員を配置すると計画している。</p>
<p>低学年のときは少人数で良いと思うので「分校」に通い、高学年になると「本校」に通うという選択肢があっても良いのではないかと？</p>	<p>分校案についても、検討委員会で議論をされた。分校においては、校長がいなく養護教諭も配置されない場合もあり、教育条件が悪いということで議論が進まなかった。</p>
<p>美土里町・向原町では学校統合しているが、統合により、学校・地域・子どもたちはどう変化したか？</p>	<p>「地域から子どもの声が聞こえなくなった」「学校がなくなったら寂しい」という声が聞こえたことは事実である。しかし、学校が地域に出かけ学習活動を行うことで、そうした声も少なくなった。学校統合にも一長一短がある。未来に生きる子ども達にとって、何が良いのかをしっかりと議論いただきたい。「地域が寂れる・郷土に対する愛着」ということと、「未来を生きていく子ども達にとっての効果的効率的教育」とは、区別をして議論いただくほうが、結果として良い結果を招くということは体験として申し上げる。</p>
<p>放課後児童クラブが統合されると、送迎距離も長くなり、保護者の迎えを待つという精神面での不安が生じる。対応策はあるか？</p>	<p>学校への通学については、公共交通のない来原地域においてはスクールバスを検討している。放課後児童クラブの送迎は保護者の送迎となる。運営費用の面もあり、1小学校1放課後児童クラブで考えている。統合すると、地域が広がり送迎時間がかかることもあり、放課後児童クラブの開所時間など対応する必要も生じてくる。子育て支援課に要望を伝え、具体的には準備委員会において皆さんと協議して検討していく。</p>
<p>放課後児童クラブの夏休み・冬休みの利用について、送迎するにも勤務先とは逆の方向になる。</p>	<p>持ち帰り主務課に要望を伝える。</p>
<p>統合校の選択について詳細の説明</p>	<p>別紙比較表において説明。</p>

をして欲しい。	各項目での評価と総合評価で統合校を選択した。
比較において中国縦貫道の位置づけが不足しているのではないかと？	昨年、教職員の通勤面等で有利であると意見をいただいたが、評価項目には入っていない。
船佐小学校は河川が近く、水害により孤立する可能性があるのではないかと？	防災面は、市の防災計画やハザードマップを参考としている。河川については、冠水による危険はないと認識している。
今後のスケジュールは？	平成 24 年度は、地域・保護者の理解と協力を得られた地域から、準備委員会を立ち上げ具体的協議に入らせていただきたい。画一的に進めるのではなく、丁寧な説明を行う。
教育委員会では、今日の説明会の雰囲気をごどのように理解されたか？	本日の説明会で合意が得られたとは考えていない。教育に対しては、教育行政である教育委員会が責任を持ち先頭に立つものであるが、学校・保護者・地域がそれぞれ役割分担して担うことで、より良い教育が展開されていくものである。引き続き話し合いを継続していきたい。
適正化計画が動き出し、統合校は船佐小学校となっている。地域としては、将来の子ども達の教育をどうするかと、統合に伴い地域をどう考えていくかは、分けて考える必要がある。今日の説明会でも、大人数で子どもを育てていくことについて反対意見は無かった。統合校の位置を見直すことは、相手校での反対が起こり、統合が延びてしまう。歴史ある小学校の跡地を、どうやって地域に生かしていくか、地域の活性化をどう考えていくかを話していくべきではないか。	意見として傾聴
放課後児童クラブなど市長部局としっかり協議して、具体的な答えを示したり、市長部局も参加する必要がある。教育の質を上げるための学校統合であるなら、4・3・2 制の導入など新しい考え方に、どう対応していくかも示して欲しい。	意見として傾聴

<p>地域と協同して子どもを育てるとい いながら、学校統合案が出ている。 学校がなくなる地域の子供達との 関わり方など、教育委員会から示し て欲しい。 今後も、保護者・地域がしっかり意 見を出して、こうした場で市民と教 育委員会がキャッチボールを続けて 欲しい。</p>	
---	--

別紙 高宮町内の3小学校比較表

評 価 項 目		各 学 校 の 評 価		
		川根小学校	来原小学校	船佐小学校
5年後児童数	計画の最終年度児童数	低い	高い	
青年人口	将来の児童数見込み	低い		高い
学校位置	町域全体から見た位置	低い		高い
	公共的施設等との関係		低い	高い
通学	5年後児童の総通学距離	低い	同等	同等
	通学路の安全	同等	同等	同等
学校施設	校舎の新しさ		高い	
	校舎耐震性	高い	高い	高い
	教室面積	高い	高い	高い
	校舎全体面積	低い		
	体育館の新しさ			高い
	体育館面積	低い	低い	低い
	プールの新しさ		高い	
敷地条件	敷地面積	低い	低い	高い
	グラウンド面積	高い	高い	高い
	敷地の形状	やや高い	高い	やや高い
自然環境	騒音・日照等の環境条件	高い	高い	高い
	災害に対する安全	高い	高い	高い

上記の評価と総合評価（広い町域内での中心位置・図書館に近い・診療所に近い・ハーモニー広場があり雨天時に活用できる）を合わせ、現船佐小学校を選考。

2. 小田東小学校区（甲田町：小田東地域振興会「協働のまちづくり懇談会」）

① 開催日時：平成 24 年 7 月 21 日（土）19:30～21:20

② 参加人数：76 名

③ 説明内容

教育次長から、経過の説明	<ul style="list-style-type: none">○ 平成 23 年度は計画の周知の年度と位置づけ、13 小学校全ての保護者会で 14 回、地域振興会で 11 回の説明会を開催した。説明会で出された、共通課題や地域課題の整理を行っている。○ 平成 24 年度は、新教育長を迎え計画の推進について確認し、引き続き、さらに丁寧な説明を行い保護者・地域の理解を得て、統合の準備委員会を設置いただき、実質協議に入らせていただきたい。○ 市内共通認識として、子ども達により良い教育環境を作っていかなければならないことについては、理解いただいていると感じている。○ 具体的な課題としては、通学と放課後児童クラブという 2 つの課題を聞いている。○ 通学については、計画書では小学校の場合 40 分という通学時間を目安としている。40 分を越える地域では、バスあるいは運行路線がない場合はスクールバスで検討している。国の遠距離通学は 4km という基準があるが、中山間地域の特性もあり、もっと短い 3km など試算しながら検討中。ただし、全ての路線に運行し家から学校までの送迎はできない。幹線道路を運行したい。○ 小学校が廃止となる地域からは、地域活性化の課題を聞かせていただいている。学校は地域において様々な形で拠点としての役割を果たしてきている。○ 子どもが少なくなるから学校を統合するという対処療法ではなく、根本的な人口増対策、若者定住策、子育て支援策を考えるべきという意見をいただいた。市長も議会において、市の施策全てが地域振興策であるとの答弁を行っている。今回の光ネットワークの整備事業も、情報環境を整え、企業誘致を進め、若者の定住を図る目
--------------	---

的を持っている。しかし、即効性のある施策がないのも事実で、今後もしっかり進めていきたい。

- 小学校跡地の活用について、地域から委員を出して市と一緒に考えるべきとの意見については、統合に向けた準備委員会には、地域の代表や保護者の代表に出していただき、跡地の活用を含めた様々なことを考えることとなる。地域の知恵をいただきたい。
- 統合校である甲立小学校の施設整備については、児童数が多くなり教室が不足する場合など、当然に整備していく必要がある。また甲立小学校のプールについては、水量確保の面から現位置になったものと聞いているが、屋根付プールでない実態もあり、全市的見地から、財政面も含めて今後検討したい。
- 校舎の利活用については、体育館・グラウンドについては、地域振興・防災や社会体育面を考慮して残していきたい。体育館については耐震工事を行い残したい。
- 校舎については、地域の良い知恵があればそのまま残す方法もあるが、将来にわたる維持管理が課題となる。現在の小田東小学校は、昭和 53 年度建築、鉄筋コンクリート造り 3 階建て、延べ床面積 2,463 m²の大きな建物で、電気代だけでも年間に 240 万円程度かかっている。
- 耐震性が無いので、校舎をそのまま活用するとなれば、耐震工事と活用目的に添ったりリニューアル工事が必要となるが、経費負担については、協議の中で、市の負担も行わなければならないだろう。
- 維持管理については、無償譲渡か指定管理という形態になるが、いずれにしても地元負担が大きく必要になる。地元でも議論をいただきたい。学校校舎については、余りにも大きすぎ、何十年も姿を残して廃屋のようになっている例を見る。皆さんと一緒に、よい方法を考えたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 甲田公民館の移設という意見については、合併に伴い1町1文化センターという方針を立てていて、甲田町ではミュージズを文化センターとして位置づけ、甲田公民館は廃止・解体の方針である。 ○ 保育所の移設の意見もいただいているが、甲田町の3保育所は昭和50年代前半に建築され、更新を考える時期が迫っている。保育所も少子化の波に洗われ、「保育所規模適正化推進計画」をたて、甲田町では1保育所という方針が出ている。具体的には、現在の保育所が使用できなくなった段階で、皆さんの意見を聞き統合を考えていくこととなる。 ○ 現校舎の一部だけを残しての活用は可能であるかとの質問については、技術的には可能ではあるが、しっかりとした設計・耐震工事・建築基準法をクリアする工事など必要となり、費用対効果が出るか全く不透明である。一度更地にして、規模に見合った新しいものを考える方法も、将来の維持管理費の面において、長い目で見て正解ではないかと考えている。こうした具体的な跡地活用も準備委員会で知恵をいただきながら協議したい。 ○ 一部を賃貸することができるかということについては、無償譲渡・指定管理にしても、営利を目的とした行為については厳しい制限がある。賃貸は触れるおそれもあり、個別に相談いただきながらの判断となる。 ○ 平成24年度は、さらに地域に出向き説明を行いながら、地域・保護者の理解を得られた地域から、準備委員会の段階に行かせていただきたい。
--	---

④ 会場からの質問・意見の概要

意見・質問の主旨	回答
平成23年度に説明を1回受けたが、今後も説明会を設ける考えはあるか？	昨年の1回の説明会で合意を得られたとは理解していない。今年度も地域振興会や小学校の保護者会に声をかせさせていただきたい。

<p>通学について、40 分の通学時間でどのように考えているのか？</p>	<p>40 分の通学時間内に子ども達が学校に着くようにしたい。徒歩で 40 分以内の場合は徒歩通学、徒歩で 40 分以上かかる場合はバスかスクールバスでの対応を基本に考えている。低学年と高学年では身体能力も違うが、平均で検討している。4km を 40 分という事には無理があるので、一例で 3km での試算を行っている。</p>
<p>基本的な質問だが、小田東小学校が無くなって甲立小学校に合併することか？</p>	<p>○ 市のホームページの教育委員会に、「学校規模適正化推進計画」と平成 23 年度説明会における質疑を載せているので、ご覧いただきたい。 ○ 学校規模適正化推進計画の概要を説明。</p>
<p>小田東小学校を市で改修してもらって、福祉施設にすることはできるか？</p>	<p>個々の具体的回答は控えたいが、様々な活用方法を、準備委員会で協議していきたい。</p>

3. 来原小学校区（高宮町：来原保育所保護者会）

① 開催日時：平成 24 年 9 月 7 日（金）19:40～21:15

② 参加人数：9 名

③ 説明内容

<p>教育長から</p>	<p>4 月 28 日に教育長を拝命した。適正化計画については、当時の学校現場で聞いているし、施策の連続性も必要で、この適正化計画を進めていきたい。学校教育の実践は、学校・地域・保護者の協力で充実していく。合意形成をはかり、次の統合準備委員会に向け進めたい。</p> <p>これからの社会を生きていく子ども達に対し、子どもの可能性を一番伸ばしていく教育環境はどうあればよいか意見を交換しながら、学校規模の適正化に向けて、共に考えていきたい。</p>
<p>教育総務課長から、計画の説明</p>	<p>学校規模適正化推進計画を説明</p>

④ 会場からの質問・意見の概要

意見・質問の主旨	回 答
<p>現在は3小学校のプールを夏休みに利用しているが、統合した場合どうなるのか？</p>	<p>学校プールについては、八千代町でも意見をいただいた。基本的考え方として、B & G、学校プールを含めて将来1町1プールで管理運営したい。</p> <p>しかし、学校統合にあわせてプールも統合していくのは早急すぎるとも考えている。準備委員会で協議しながら、維持管理費も見ながら検討したい。</p>
<p>中学校が2校に統合された場合、クラブの朝練等に間に合うような通学保障はなされるのか？</p>	<p>スクールバスとして新しい路線を設ける場合、登校時に2便、下校時に2便ということは、市全体を考えた場合、検討の時間を要す。</p> <p>中学校の統合で場所を示していないのは、通学の課題や寄宿舎の検討も必要で、小学校の後とした。</p>
<p>統合前に学校環境になれる事前準備、生徒が変化に戸惑わない取り組みをどのように準備するか？ 障がいのある子ども達、特に発達障がいに伴う子ども達は、環境の変化がしんどい。</p>	<p>統合前には、高宮町では3小学校が可能な限り交流学习を行い、子ども達が一つの集団に馴染んでいく努力をしたい。</p> <p>人事の面においても、子ども達が不安にならないような配慮もいくらかは可能であると考えている。</p> <p>統合後は、県の教職員の加配措置も活用して、新しい学校にスムーズに適応できるよう、教職員を手厚く配置するなどの努力をしたい。</p>

	障がいがある子ども達についても、同様に充実していく。
夏休みのプール利用について、1町1プールとなった場合、保護者が送迎するのか？	スクールバスは通学限定で考えている。夏休みのプール利用は、公共交通の利用か保護者送迎となる。保護者同士で交互に送迎するなど工夫されている。
夏休み、子ども達が遊ぶ公園は？ 廃校のグラウンドは利用できるのか？	基本的に、体育館とグラウンドについては、社会体育・地域振興・防災避難場所として維持していく。夏休み等利用いただきたい。 校舎については、市としては施設転用の計画はない。地域との協議の中で、地域振興の活用策があれば、地域で管理活用していただくが、年間維持管理費が相当必要で維持が大変である。
美土里町での廃校の利活用の例は？	美土里町の旧4小学校のうち、校舎は旧生桑小学校を除き解体撤去。体育館も十分なものではなく解体。旧学校プールは全て廃止した。 学校跡地については、地域が話し合わせ、集会施設等を整備された。
子どもの年齢によると、小学校でも統合を経験し、中学校でも経験することもある。新しい人間関係を作る経験を2回することは、子どもに負担となる。小学校の統合と中学校の統合を同時期にできないか？	小学校も高学年以降の多感な時期になると、人間関係が学校生活での重要な位置を占めるようになり、心配されると考える。 現在、小学校の統合時期はいつで、中学校の統合時期はいつだと言うことはできない。
保護者としては、ある程度的人数が集まり勉強したほうが良いということは理解する。統合にも色々意見があり、準備期間が相当必要。教育委員会で主導を取り進めるほうが、スケジュール的にうまく進むのではないか？	計画は5年間となっているが、5年にこだわるものではない。目標として取り組むが、合意形成を大事にしたい。 保護者や地域でも温度差はあろう。「子ども達に一番効果的な教育環境はどうであるか」と、「地域に対する愛着や学校が無くなると寂しい」ということは、区別して考える方が失敗しないと考える。 川根中学校と高宮中学校の統合のときの地域の判断が、学校統合を考える場合の良い例だと感じている。
同年齢をみると、9名中8名が同性で、残り1名は目標の平成28年度まで、同級生での同性との対等な遊び、集団形成ができない。	小規模であると、学年で性別が不均衡であったり、一旦人間関係が崩れると苦勞する例もある。これまでの経験から言うと、子ども同士の間人間関係・信頼関係作りの能力は、大人以上にある。
児童館・児童クラブの規模についてはどう考えているか？	基本は、統合校の近くに希望される児童が通所できる規模を整備する。高宮町では、統合校である現船

	佐小学校のグラウンドに新たな施設を整備する方向で考えている。運営者は、現在市内ほとんどの運営を行っていただいているNPOで対応できる。
統合時期がわかれば、早く情報供して欲しい。	意見として傾聴
統合時期の見込みが決まっていないことが一番の不安。	意見として傾聴
「賛同を得て」という判断基準が解からない。次の段階に行くタイミングは何か？	行政としても責任を持ち進めていくが、地域や保護者においても思いの違いはあると思う。こうしたことを、しっかり地域の中で議論していただくことが、地域のまとまり・本当の地域作り、将来につながると思う。行政対市民という構図では、次の段階が見えない場合もある。 とはいえ、いつまでも説明会ということもできないので、今後何回か説明会を重ねさせていただき、準備委員会の立ち上げを提案したいと考えている。
準備委員会の編成は？	統合校の単位で設置し、委員には地域振興会・PTA保護者会・保育所幼稚園保護者会・小学校長・中学校長から出ていただく。 準備委員会で行政と一緒に協議する内容は、新しい学校を作る全ての事項、校名・校歌・校旗・校章、跡地の活用・通学の方法・施設の整備・備品整備・放課後児童クラブ、学校の教育目標・経営方針、開校・閉校式典、学校史の編纂など多くの中身がある。
跡地活用や自分が通った学校をどう守るかは、反対もあり協議が長引く。準備委員会では、学習の中身を検討する委員会と跡地活用の委員会は別にすべきではないか？	ご指摘の通り、部会で分けて議論したい。
通学に4kmとの基準があるが、来原小学校を例にすると、4kmを超える児童とそうでない児童がいる。通学路は山を越えての通学になり、安全安心面で不安がある。	小学校の遠距離通学は、国の4kmという助成基準がある。市内の通学の状況は、現在バラバラで、公共交通もある地域とない地域がある。 現在の試算では、地域の状況もあり、夏場は3km、美土里町・高宮町の豪雪地帯の冬場はもっと短い距離にできないか財政負担を見込み検討している。5年間しか財政支援が無く、将来持続可能な通学方法を考えたい。 来原地域から船佐に行く公共交通が無いので、ス

	クールバスなどで考えている。
通学距離は、学校からの半径で測定するのか？	道のりで考えている。
保護者として考えることは、児童遊園地や公園なども無く、地域に住むメリットがない。小学校や中学校の位置がどこになるかを考えて、そこに住むことも方法の一つ。	意見として傾聴
街の中心は吉田だが、玄関は高宮 ICだと考える。なぜここに住むかといえば、ICがある、学校があるということ。学校が無くなればと考えてしまう。一方では、子どもが少なく、しょうがないという思いもある。	意見として傾聴
過疎化が進み、若者を地域に戻す方法を考える必要がある。地域を元気にすることは、当事者の一人として、自分も発信をしていかななくてはいけない。若者定住施策や魅力ある街づくりを含めて、学校の統廃合が地域振興にとって建設的議論になるよう展開されれば良い。	意見として傾聴
川根中学校の統合のときには、「学校統合については地域が子ども達の将来のため理解しよう、地域振興策は大人の責任として地域をどう守るか、今後大いに議論しよう。」という取り組みであった。	意見として傾聴
新しい学校には魅力がなければならぬ。魅力ある学校をどう作っていくか、地域との連携をどう作っていくかが大切である。	意見として傾聴
地域にも、ICや学校の他にも「ふるさと」の良いところが多くある。こうしたことを若者にも理解してもらいたい。	意見として傾聴

4. 船佐小学校区（高宮町：船佐小学校 PTA 保護者会・船佐保育所保護者会）

① 開催日時：平成 24 年 10 月 2 日（火）19:30～21:00

② 参加人数：27 名

③ 説明内容

教育長から	平成 23 年度は計画の周知を図るため、市内に説明会に出向いた。24 年度は昨年出された共通する要望や質問に対し、現段階での方向を示し、より具体的な説明を行い、意見を聞きたい。 この計画は、行政主導で強引に進めるものではなく、保護者・地域の意見を聞きながら、合意形成に基づき進めていきたい。
教育総務課長から、統合に関する準備委員会の説明	小学校統合準備委員会の仕組み・内容を、別紙資料により説明

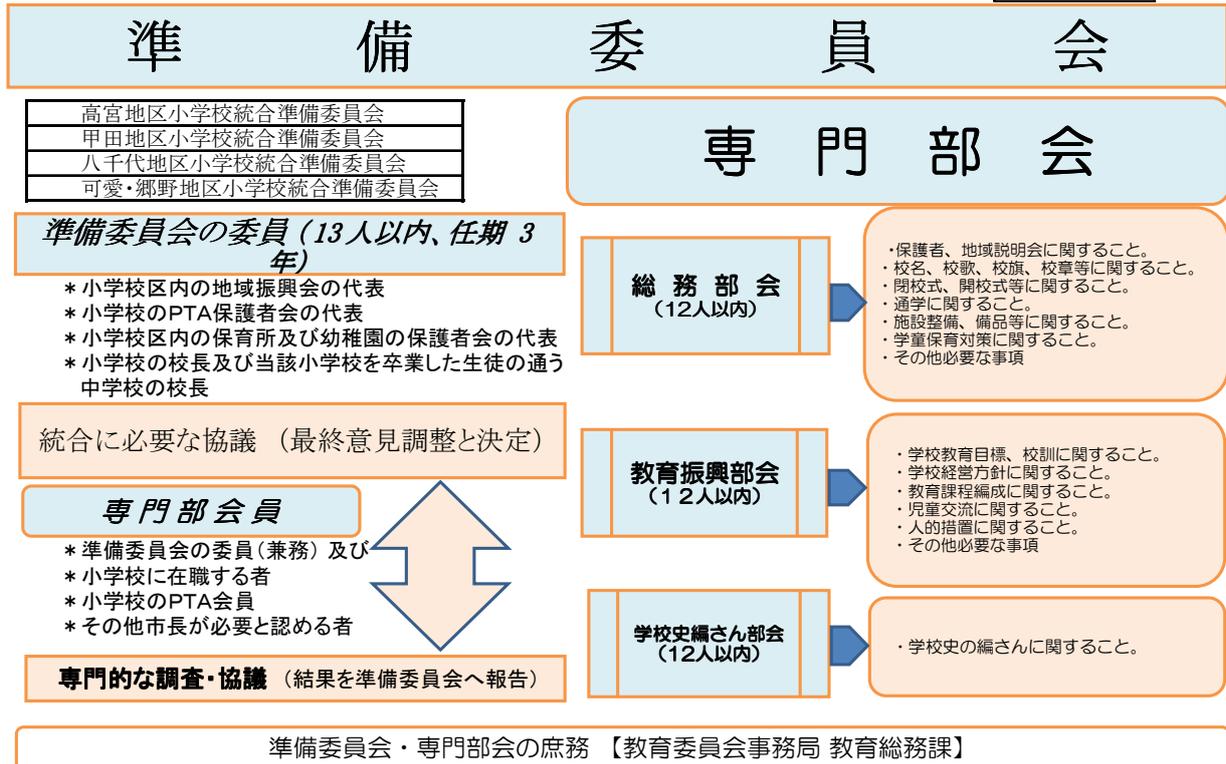
④ 会場からの質問・意見の概要

意見・質問の主旨	回 答
スクールバスを利用できる条件について、詳しい説明を求める。	現在市内の小学校においては、学校の統合の歴史の中で、バス利用、遠距離通学制度が違っている。市町村合併 10 年にもなるので、市内のバス通学、遠距離通学助成制度の統一も考えている。 今回の統合計画において、バス路線の無い通学区域、例えば現来原小学校区から現船佐小学校に通うバス路線は無い。こうしたバス路線の無い路線には新たにスクールバスを考えている。 現在バス路線がある小学校区については、中山間地域の現状から、遠距離通学を 3km にできないか、また、冬にはもう少し短くできないか検討している。学校統合による遠距離通学は、4km 以上、5 年間の国・県の補助制度があるが、国・県の助成が終了しても持続可能な制度で検討している。
通学については、安全安心の視点で考えて欲しい。船佐小学校区にも危険な場所は多くある。	通学は保護者の方も大きな心配事であると思う。教育行政としても最重要課題の一つとして考えている。安全安心の視点で、諸外国の多くでは家の門から学校までスクールバスで送迎している例があるが、こうした方法で確保することは財政的に無理である。今回の統合においては、実現可能な方法で考えざるを得ない。安全安心確保には、学校・地域・家庭の

	<p>協力のもと、市行政・教育行政が一緒になって考え、できる限りの対策を講じたい。</p> <p>生活交通がある路線については、補助金を出して運営している実態もあり、同じ路線にスクールバスを運行することは二重投資になる。バス路線がある地域においては、バスに乗ることができる距離を短くし安全安心が確保できないか検討している。</p>
今回の計画書においては、通学についてどう考えていたのか？	<p>計画書においては、「遠距離通学については、小学校においては40分を目途とし、それを超える場合は、生活交通かスクールバスで対応する」とし、40分を距離に換算し、3kmで現在試算を行っている。</p>
通学における船佐小学校区内の具体的検討内容は？川根小学校からの通学は？来原小学校からの通学は？	<p>船佐小学校区にはバス路線が3路線ある。バスに乗れる距離を検討している。</p> <p>川根小学校区から現船佐小学校までは、お太助ワゴンもやい便があり、この利用で検討している。</p> <p>来原小学校区から現船佐小学校まではバス路線がなく、スクールバスで検討している。ルートの案としては、すだれ・現来原小学校・来女木・羽佐竹・現船佐小学校のルートを検討している。</p> <p>準備委員会で意見をいただきながらの検討になる。</p>
小学校が統合した美土里町での通学の例は？	<p>美土里小学校は、路線バスを利用した通学である。北、生桑、塩瀬から路線バスがある。遠距離通学距離は3kmである。</p> <p>当初は美土里小学校までバスが来ていたが、現在は美土里支所まででそこから歩いている。安全安心には最大限の配慮を行うが、子ども達に何を求め、何を鍛えていくかは、保護者と意見交換しながら、通学方法をきめていきたい。</p>
区域が広くなり、通学にも時間がかかる。バス通学となると保護者負担も大きくなり、自家用車で送迎が増えるのではないかと通学区域も広がるので学校の開始時間を遅らせることはできるか？	<p>学校の開始時間は校長の権限であるが、一定の時間割もあり大きく変更できないのが現実である。</p> <p>現在バス路線の無い来原小学校区においては、子ども達が朝早くから徒歩通学している実態もある。</p> <p>学校にとり好ましいことではないが、保護者による自動車での送迎も有る実態がある。こうした通学には遠距離通学の助成は行えない。</p> <p>このように保護者にも様々な考え方があるので、一つの案として、通学に対する保護者の選択を広げる方法もある。ただし、教育行政として通学手段を確</p>

	保する必要もある。
放課後保育については？	担当課と協議した基本方針は、統合校の校庭か近隣に、希望する児童が通所できる規模を整備する。運営は現運営法人で対応し、形態は町毎の運営形態を尊重するというものである。
学校プールについては？	基本方針として、将来的には、学校プール・B&Gプール含めて、1町1プールで運営したい。学校統合にあわせてすぐにプールの統合を行うのではなく、学校プールの維持費を見ながら、意見を聞き検討していきたい。
平成28年度の児童数を見る限り、多人数での教育が良いということは皆が感じている。現在の出生率を見ると、統合をしても1学年が10人に満たない状況も予想される。今回学校統合という大きな壁を乗り越えても、又こうした状況が見えてくる。将来を見据えた適正化計画になっているのか？ 統合反対意見には、田舎は寂れていくばかりで学校統合しかないのかという思いもある。別のアイデアは無いのかという地域の思いがある。 学校統合の後、また10人しかいなくなった時に、どういう学校運営を行うか、専門である市教委から、これは素晴らしいというような奇策を出して欲しい。学校統合をすることで変わりますという姿を示して欲しい。	<p>今年の統計によると、高宮中学校1年生の数字では、平成34年度に20人を切り、35年度には12人という数字になる。こうした実態に対応するため計画を策定した。</p> <p>小学校においては、町を越える通学は児童の負担が大きすぎ、将来においても旧町単位での学校運営が好ましいが、中学校においては1学年複数学級とする町を跨いで統合案としている。</p> <p>地域の活性化・人口増対策についても、光ネットで企業誘致を進め若者の増加を推進する施策等を展開しているが、目に見える結果がすぐに現れない現実がある。こうした活性化策も同時に進めている。</p> <p>小学校は地域との密着度が高く、学校は地域文化の拠点で、学校がなくなると地域が寂れると古くから言われてきたことは事実である。「地域づくり・地域活性化」と「子ども達にとっての今考えられるベストの教育環境」は別の次元で考える必要がある。地域への愛情は強いものがあるが、それを優先するあまり、未来に生きていく子ども達の教育をおろそかにすることは、義務教育に責任を負う市教委としては無理が有ると考えている。</p> <p>教育には奇策はないが、安芸高田市は小中連携教育で学力については一定の成果を挙げている。学力テストなどで成果は現れている。今後、小学校・中学校のカリキュラムを工夫して繋いでいき、小中連携の成果をさらに出していきたい。</p> <p>また、安芸高田市全域をふるさととして愛する「安芸高田市ふるさと協育」を体系的に作っていきたい。</p>

	<p>子ども達をどう育てていくかは、教育行政だけではなく、地域での教育、家庭教育の責任を見直していただき、3者が役割を分担して責任を担う必要がある。</p> <p>統合により1町1小学校となる。メリットもデメリットもある。メリットを生かしてデメリットを克服していくような教育内容を、保護者の協力を得て取り組んでいきたい。</p> <p>また、1小学校1中学校の特性を生かした小中連携教育をどう進めていくか、具体的な教育方針等を今後準備委員会に提示していきたい。</p>
<p>統合すれば現在10人のクラスが29人になる。きめ細やかな指導について、予算的にも配慮してもらえるか？</p>	<p>学校統合においては、県教委から教職員の加配措置の制度がある。また、市独自の学習補助員や教育介助員の制度も持っている。</p> <p>準備委員会での実質協議においては、人的配置の計画も示して、クラスの実態に応じた教職員配置も示していく。</p>



5. 小田小学校区（甲田町：小田小学校 PTA 保護者会・小田保育所保護者会）

① 開催日時：平成 24 年 10 月 4 日（木）19:05～21:30

② 参加人数：25 名

③ 説明内容

教育長から	<p>平成 23 年度は計画の周知を図るため、市内に説明会に出向いた。24 年度も引き続き説明・意見交換を行い、計画を着実に実施していきたい。</p> <p>地域の協力なくしては、学校教育は成り立たない。小学校は地域との密着度が高く、行政主導で強引に計画を進める気持ちはない。</p> <p>可能な限り意見交換を行い、将来を生きる子ども達にとって一番効果的な教育の体制、今考えられる最良の教育環境はどうあるべきかを視点に、保護者・地域と共に考えたい。</p> <p>合意形成ができたなら準備委員会という新たな組織を立ち上げていただき、新しい学校を創る視点で協議を深めていただきたい。</p>
教育次長から、統合に関する準備委員会の説明	小学校統合準備委員会の仕組み・内容を、別紙資料（船佐小学校と同じ資料）により説明

④ 会場からの質問・意見の概要

意見・質問の主旨	回 答
<p>平成 28 年度には統合と聞いている。なぜ急ぐのか？今後統合に向けての取り組みは？現在の進捗状況は？今後の見通しは？</p>	<p>少子化により児童生徒数が大きく減少している。今後に向けた教育環境のあり方として計画を策定した。</p> <p>計画期間を平成 27 年度までの 5 年間としているが、目標年度であり、保護者・地域の理解と協力を得て推進したい。</p> <p>意見交換を積み重ねる中で、皆さんの意見が次の段階に進もうということになると、準備委員会の設置を提案したい。準備委員会では、新しい学校を創る全てのことを、地域・保護者・保育所保護者・小学校・中学校・市・教育委員会一緒になり考えたい。</p> <p>市内 4 つの統合区があるが、現在、準備委員会の設立がなされた地域はない。</p>
既に統合が済んでいる地域、美土里・向原においての、経緯、問題点、	広島県においては、平成 18 年以降、13 の市町で学校統合が進んでいる。県内全体での状況では、経緯

<p>その解決方法、統合において良かった点などを教えて欲しい。</p>	<p>としては、学校が過小規模化し、複式学級の解消を一つの目的としている。県内共通する課題としては、通学と跡地活用がある。通学については、多くのところでスクールバス対応がされ、跡地の利活用については有効な方策が困難な状況がある。子ども達にとっては概ね好評価を得ている。人間関係作りが広がったり、学校が集団として活気が出たりしている。反面、学級の児童数が増え目が行き届かなくなったり、通学に対する負担もみてとれる。こうした課題に対しては、教育環境の整備や通学条件の整備を行い対応していきたい。</p> <p>美土里町においては、平成 15 年に統合されたが、統合に 11 年程度を要した。課題としては通学条件の整備であったが、路線バスを活用した対策を取っている。伝統芸能の継承については、地域での指導をお願いし、地域での継承となっている。保護者と地域の意見がまとまらない時期もあったが、意見が揃ってからは、委員会を設置して具体的議論が行われ、統合に向かっていった。</p>
<p>複式授業のイメージがつかめない。具体的に説明して欲しい。</p>	<p>資料（後記）に基づき説明。</p> <p>2つの学年が同じ教室で一つの学級となり、担任一人で勉強するのが複式学級。</p> <p>複式学級になる基準は、1年生を含む場合は隣り合う2つの学年の合計が8名以下になると複式学級になる。2年生以上での組み合わせの場合、合計が16名以下になると複式学級になる学級編制基準がある。</p> <p>小田小学校の場合、表のように来年度入学予定が5名である。この学年が26年に2年生に上がったとき、3年生7名との合計は12名で複式学級になる可能性があるが、県の今年の制度には変則複式の解消加配があり、単式学級に戻る見込みである。</p> <p>学年には1・2年生の低学年、3・4年生の中学年、5・6年生の高学年というククリがあり、このククリを外れる場合、「変則複式」といい、県が教員の加配を行い単式学級に戻る。</p> <p>しかし、この学年が3年生になった場合は、4年生との合計数12名で、今の制度では複式学級となり、</p>

	<p>3・4年生が一つの教室で一人の担任で勉強することとなる。</p> <p>授業は、一つの教室に二つの黒板を準備して、3年生の集団と4年生の集団を作る。担任は一つの学年には復習（自習）を指示し、別の学年で教科を教え練習問題ができるようになった頃に練習問題（自習）を指示して、それまで自習していた学年に行き教科を教える。これを「わたり授業」という。児童は当初他の学年の授業に気を取られるが、訓練をすれば自習できるようになる。</p> <p>メリットとしては、発表の機会が増えたり、表現力が鍛えられる、自学自習の態度が養われる、リーダーシップを発揮できるようになるなどがある。</p> <p>デメリットとしては、複式学級に慣れるまで、子ども達も苦しいし、近年は複式授業を経験した教員も少なくなり訓練が必要となる。また、子ども達を直接指導する時間が半分になり、授業進度が遅れる場合も有り、放課後のフォロー学習で取り戻すなどで学力の充実を図っている。</p> <p>メリット・デメリット両面あるが、一人の担任が2つの学年を半分ずつ教えるということは、基本的に不利であるということで、複式学級の解消を念頭に置き計画の推進を図っている。</p>
<p>通学についてどのような方法を検討しているか？JR を利用しての通学は可能か？</p>	<p>通学は 40 分を目安としている。国の遠距離通学助成は 4km という基準であるが、現在市では 3km で検討している。3km 以上のバス通学には通学費の助成を検討している。</p> <p>公共交通が走っている路線は、公共交通を利用しての通学で考えている。公共交通機関がない場合、スクールバスで検討している。</p> <p>小田小学校区においては、統合校である現甲立小学校に行くバス路線が無いため、スクールバスを検討している。JR の利用についても可能としたい。</p> <p>準備委員会で検討していきたい。</p>
<p>スクールバスはどこまで送り迎があるか？集合場所は？</p>	<p>具体的ルート案としては、幹線道路である県道を運行したい。乗降場所は、既設の路線バスのバス停同様に、何ヶ所に設置したい。</p>
<p>県道からわき道には入れないのか？</p>	<p>外国には家の門から学校までスクールバスを運行す</p>

<p>児童も少なくなり、一人でバス停まで歩くのか？</p>	<p>る例もあるが、日本の制度として、また財政的にも、この方法は取ることができない。 小田小学校の児童数では、大型バスが必要で、細い道に入ることができない。市内にはスクールバスを運行させる必要がある学校区が他にも有り、市内全体を考えた場合、バスを小型化して何路線にもすることは難しい。 準備委員会で具体的な課題を聞き、できる限りの方法を検討していく。</p>
<p>スクールバスの利用料については、どうなるのか？</p>	<p>バス通学は、これまでの学校統合の歴史の中で統合条件として発生してきたもので、各学校でバラバラな通学方法となっている。 バスに乗れる距離も 3km 以上、4km 以上とか、利用料助成も 100%とか、一定距離を越えた運賃とか、様々な方法になっている。 合併後 10 年近くなり、学校の通学方法についても市内統一したいと考えている。 案としては、バス通学できる距離は 3km 以上を基本として、助成額については現在教育委員会で検討している。</p>
<p>スクールバスを運行する場合の、委託業者は？</p>	<p>スクールバスは、乗る人を限定して通学に利用するため、通常の貸切バスと同様に考えられる。これまでの手法では、入札により決定するようになる。</p>
<p>統合に関してアンケートをとられたか？賛同者の割合は？</p>	<p>計画についてのパブリックコメントとして、検討委員会の中間案と市の適正化計画中間案に、計 2 回のパブリックコメントを求めた。 統合の賛否について、保護者アンケートは求めている。</p>
<p>若い世代が戻ってこようというような施策がない。高齢者に住みやすい施策ばかりである。若者に住みやすい町にしなければ、つぶれてしまう。</p>	<p>高齢者にも若者にも住みやすい町にする必要がある。地域づくりには行政の責任も大きいですが、地域の中で世代を超えて考えていただく必要もある。 この計画は、子育て世代の思いを無視して作ったものではない。</p>
<p>何人いれば学校は存続できるのか？</p>	<p>文科省の標準的な学校規模としては、12 学級～18 学級である。しかし、人数が少なくなり複式学級になっても、学校が無くなるものではない。学校の運営経費も出るし教職員も配置をされる。 実際には、そこで学ぶ子ども達の教育環境を考えて、</p>

	皆さんで判断をいただくようになる。
中学校ではクラブ活動も数クラブしかなく、活力が失われている。中学生になると身体もしっかりきて、通学に耐えることもできるため、先に中学校の統合を進めるべきではないか？	そうした意見をいただくこともあり、前向きに検討する必要もある。 現段階としては、中学校を先にとという意見はそれほど大きくなく、計画に則り小学校の統合を先に検討して、次に中学校を考えることとしている。
統合したら1学年が30名を超える。適正化計画にある、適正規模 20～30名より多くなる。クラス分けはできるのか？	小学校の学級編制基準については、40人学級⇒1年生35人学級⇒2年生まで35人学級と年々変化してきている。 文科省も順次基準を下げると言っているので、35名を超える学年については、学級が分かれる可能性が高まっている。
小学校の統合が行われると、町内では1小学校1中学校となる。1クラスであれば、適正化計画にある「人間関係の固定化を避けるため」と矛盾することになる。	小中学校一つのクラスで9年間を過ごすということになり、指摘されるデメリットは確かにある。人間関係の固定化は否めない事実である。 反面、メリットで考えると、義務教育9年間で行っていく小中連携の面では、1町1小学校1中学校の形は、小中連携において効果を挙げる。 デメリットを最小にしてメリットを最大限に生かすことを、大きな課題として取り組みたい。
美土里町の小学校統合において、はやし田を地域伝承の形に戻されたと聞いたが、その後発展していったのか？学校の後ろ盾が無くなると心配である。	美土里町では、現在でも地域で継承され、5月には発表の機会を設けられている。指導者の高齢化は進んでいるが、確実に継承は行われている。 地域に対する学習ということは、学校教育にとり大切な教育であるという基本に立っている。 地域の学習を教材にして、疑問を調べたり、地域を愛する心を育てたりしている。学校教育に地域の力を貸していただいている。 大土山田楽を伝統文化として音楽の授業に取り込んでいくか、また地域での伝承をお願いするかは、今後準備委員会の部会で、教育内容・教育課程における教材として研究していきたい。
合意形成といわれるが、地域振興会では学校跡地の利活用が話し合われているし、新聞報道でも出ている。今の段階で、合意形成がなされたと判断されているか？	跡地の活用については大きな課題であり、地域で話をされるのも事実であろう。 何が何でも統合と決め付けて意見交換をしているものではない。意見交換を積み重ね、合意形成がなされたと思われる時期が来たら、準備委員会の立ち上

	<p>げを提案したい。今日の段階で、合意を得たと判断するものではない。</p>
<p>市教委として、若者が帰ってくるような魅力ある学校づくり、教育都市づくりをされているのか？</p>	<p>学校統合すればバス通学になるので帰ってこないとの心配もあろうが、過小規模校になり複式学級なので帰りにくいという声もある。</p> <p>教育の質を上げることで成果を出していきたい。現在でも小中連携で一定の成果を挙げているが、今後小中9年間の義務教育のカリキュラムを連携させて、一層連携を充実したい。</p> <p>また、地域に根ざした教育活動「安芸高田市ふるさと学習」を進め、学校統合後の特色ある教育活動としたい。</p>
<p>今後、地域振興会に対する説明の予定はあるか？</p>	<p>現在は小学校保護者会・保育所保護者会を対象に意見交換に回っている。</p> <p>地域に対しては、保護者会が終了してから予定している。</p>
<p>小田小学校では学習補助員が廃止された。きめ細やかな配慮がなされているのか？</p>	<p>学習補助員については、23年度までは市内均一に配置していた。市内全体を見たときには、1学級30人の学校でも1名配置、1学級5~10人の学校でも1名配置では、逆に公平性を欠く面もある。</p> <p>学習補助員については効果が高いので、地方交付税が減額し財政が厳しさを増す中、持続可能な制度として確立するため、平成24年度に配置基準を設け目的を持ち配置したものである。</p> <p>しかし、人数が少なければ課題が無いということではなく、支援が必要な場合は、教育介助員という制度もあり、引き続ききめ細やかな支援を行っていく。</p>
<p>夏休みの学校プールの利用はどうなるのか？</p>	<p>プールについての基本方針は、学校プール・B&Gプールを含めて、1町1プールで将来は管理運営したいというものである。</p> <p>学校統合にあわせて学校プールを廃止するかについては、プールの維持費を見ながら検討委員会で協議したい。</p> <p>美土里町では、路線バスでのプール通いや、保護者がグループで交互に送迎されるなど工夫されている。将来はこうした方法でお願いしたい。</p>

複式学級の実態

1. 複式学級のキーワード

① 2つの学年が1学級を編成して教育活動を営む

(複式学級の基準：1年生を含む場合9名未満、その他学年の場合17名未満)

小田小学校の児童見込み(24年5月の学齢簿、特別支援学級を除く)

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
24年度	7名	11名	9名	10名	11名	10名
	単式	単式	単式	単式	単式	単式
25年度	5名	7名	11名	9名	10名	11名
	単式	単式	単式	単式	単式	単式
26年度	8名	5名	7名	11名	9名	10名
	単式	単式(加配)	単式(加配)	単式	単式	単式
27年度	6名	8名	5名	7名	11名	9名
	単式	単式	複式学級		単式	単式
28年度	5名	6名	8名	5名	7名	11名
	単式	単式	複式学級		単式	単式
29年度	6名	5名	6名	8名	5名	7名
	単式	単式	複式学級		複式学級	
30年度	6名	6名	5名	6名	8名	5名
	単式	単式	複式学級		複式学級	

② 特質

- ・ 個人(能力)差と学年差・・・学習経験だけでなく生活経験においても1年間の差
- ・ 指導計画を工夫・・・学年別によらない指導計画樹立、学習指導過程の工夫が必要
- ・ 上学年と下学年を交互に経験・・・よきリーダーとよきフォロアーの経験

③ 複式学級の授業

- ・ 自学・自習が半分であり、児童自らが学んでいく立場から学習指導過程を組む
- ・ 一斉指導に終始することがないよう、一人ひとりが意欲的に学習に取り組む体制
- ・ 学習の進行上の約束を明確にし、児童だけで学習が進められるよう学び方を定着

④ 複式学級の授業の具体例

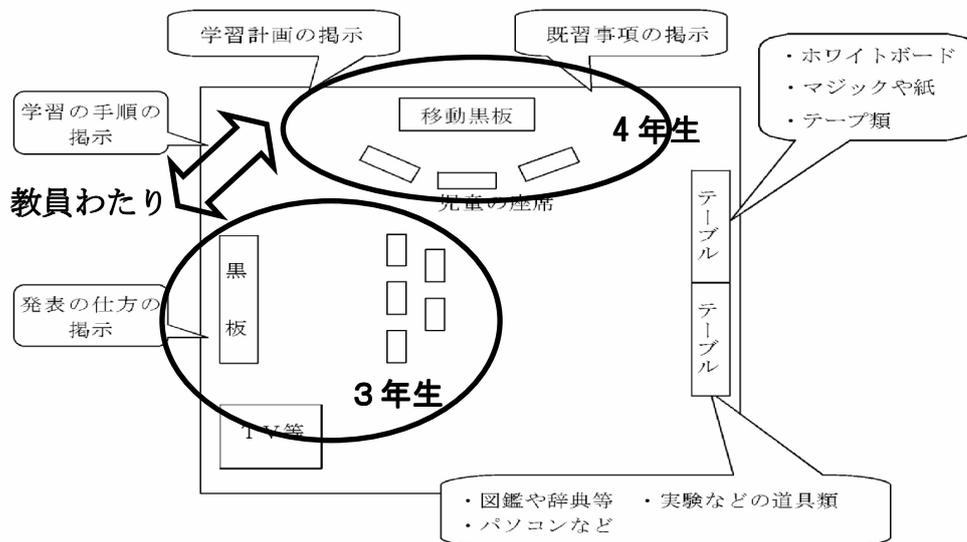
- ・ わたり・・・複式学級内では、教師は2学年を交互に「わたり」歩いて、直接指導(1つの学年の指導)と間接指導(自主的な学習)を繰り返す
- ・ ガイド学習・・・児童の中から学習の案内役(ガイド)を選び、学習を準備し、学習規則を守らせ、学習を進行し、学習の狙いを達成する
- ・ リーダー学習・・・間接指導(自主的な学習)時での進行役(リーダー)

1. 複式学級の教室例

① 例 A

教室環境<例>

自主的に学習を進めることができるような教室環境として、以下のような工夫が考えられる。



② 例 B



3年生
直接指導中



4年生
リーダー学習

2. 複式学級の長所・課題

メリット	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人ひとりの発表機会が増え、個別の表現力、思考力が鍛えられる。 ・ 複式においては、児童だけで学習に取り組む時間があり、自学自習の学習態度が育つ。 ・ 一人ひとりに責任ある仕事が分担され、責任感やリーダーシップを養う機会が多い。 ・ 異年齢の集団であり、上の学年が下の学年を指導する力が育つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの数が少なく、多様な考え方に触れる機会が少ない。(集団相互の共同学習が図りにくい。) ・ 複式においては、同じ教室の他学年の授業が気になり、授業進行が難しい場合もある。 ・ 教師の直接指導する時間が半分となり、授業の進捗が遅れ放課後の補習授業でフォローする体制を取る例もある。 ・ 複式における国語や算数などは、一人学習になれば、自学自習の訓練をつまないと授業の目的が達成されにくい。 ・ 同年代の子どもが少なく限られた人間関係になり、多様な考え方に触れる機会が少ない。 ・ 少人数であり、個人の役割や位置づけが固定しやすい。 ・ 特定の集団が形成された場合、入れない児童の受け皿がなく孤立する。

6. 刈田小学校区（八千代町：刈田小学校 PTA 保護者会・小学校区内保育所・幼稚園 保護者会）

① 開催日時：平成 24 年 10 月 12 日（金）19:00～20:30

② 参加人数：28 名

③ 説明内容

教育長から	平成 23 年度は計画の周知を図るため、市内に説明会に出向いた。24 年度も引き続き説明・意見交換を行い、計画を着実に実施し、準備委員会の設立ができたかと考えている。 今日の説明会をもって、準備委員会の立ち上げをお願いするものではない。
教育次長から、統合に関する準備委員会の説明	小学校統合準備委員会の仕組み・内容を、別紙資料（船佐小学校と同じ資料）により説明

④ 会場からの質問・意見の概要

意見・質問の主旨	回 答
佐々井・刈田・土師地区の過疎化が進む。 学校が近くにあるという安心感がなくなる。 統合は反対。	これまで学校統合が行われた地域において、「地域から子どもの声が聞こえなくなった。」「地域が寂しくなった。」という声が聞こえるのは事実。 昨年 1 年間説明に出向き、「子ども達を多人数の中で教育をしていく」ということについては、多くの保護者に一定の理解を得たとも感じている。 学校統合には、メリットとデメリットがある。未来に生きていく子ども達に、今できる最善の教育環境はどうであるかを視点に考えていただきたい。 地域への愛着・地域振興についての議論とは別に考えていただきたい。
説明会には、児童館や跡地利用の担当部署にも一緒に出席して欲しい。	現在は適正化計画や今後の進め方について説明し、統合の賛否について理解を得ている段階である。 統合の条件等について早くに知りたいという気持ちは理解するが、説明会での質問や要望については、持ち帰り担当部署と方向性を協議して説明会に出向いている。 合意形成がなされた後の準備委員会では、通学や施設整備、跡地利用など、市長部局も一緒になり協議していくこととなるので、現段階では教育委員会で担っていく。

<p>根野小学校に統合する理由を明確にして欲しい。 新校舎の建設は無理なのか？ 八千代中学校の跡地の利用はできないのか？ 中心部に学校を整備して欲しい。</p>	<p>統合校の選択については、市内4地区共通する評価項目を設定し、各学校を評価して、根野小学校を選択した。別紙の比較表により説明。 市内全体での統合計画を策定し、小学校においては4地区の統合区がある。全てに新しい学校を整備すれば、次の世代に負担を回すことになる。小学校においては、まだ新しい施設が多いため、既設校を活用しての統合を考えた。 中学校の統合計画は、市内2校としている。位置の決定、通学方法、寄宿舍などを考える時間が必要で、中学校の統合は小学校統合の後とし、時期がずれると見込んでいる。中学校の跡地活用はすぐにはできない。</p>
<p>小中一貫校にして、八千代町に小中学校を残して欲しい。</p>	<p>現在小中連携教育を推進している。町内の小学校・中学校が義務教育を卒業する時の子ども達の姿を共有し、同じ目標に向かい、それぞれの役割を確認して義務教育課程を進めている。 小中一貫校において、一番教育効果・経営効果が出る形は、同じ敷地内に校舎を併設して、同じ校長の下、同じ教育方針を持ち、9年間の教育課程を組む方法である。 こうした小中一貫校を市内で整備する事になれば、全ての地域で新しい学校用地・学校施設が必要となる。現在の財政状況ではこうした整備は難しい。学校施設の老朽化などタイミングを見る必要もある。 また、今回の計画では、中学校2校・小学校7校としているが、小中一貫校となれば、2校の小中一貫校と5校の小学校という、義務教育において違う形となり、市内全体では問題が多い。 小中連携教育において一定の成果を挙げているので、今後も小中連携を一層進めることで進めていきたい。</p>
<p>プールは学校の近くに欲しい。修理か新設を望む。</p>	<p>将来的に、学校プール・B&Gプールを含め、1町1プールで管理運営したい。これはどの町でも同じ考え方である。 学校統合と同時にプールの統合も行うかという点については、準備委員会においてプールの維持管理費も見ながら協議していきたい。</p>
<p>刈田小学校の校舎はどうなるのか？ 使用しないなら取り壊して欲しい。</p>	<p>グラウンドと体育館については、社会体育・社会教育・地域振興・避難施設として残すよう考えている。</p>

	<p>校舎について、市行政の転用計画は無い。地域で知恵を出していただき活用しようということであれば、転用することになる。ただ、鉄筋コンクリート造 3 階建ての施設を管理していくには、多大な維持費を地域で負担していただくようになる。一度更地にして、要望に見合う規模で整備する方法も一つの考えであると思う。</p> <p>準備委員会において、地域の意見を聞きながら協議していく。</p>
<p>根野小学校は災害指定地域内にある。子どもの安全を最優先すべきであり、選択が違ふ。</p> <p>がけ崩れ防止工事の予定は？</p> <p>統合校の選択を白紙に戻し、再検討すべき。</p> <p>【同様意見多数あり】</p>	<p>根野小学校は、がけ崩れの危険区域にある。</p> <p>防災面 1 項目だけ評価しての、統合校の選択ではない。</p> <p>統合区の地域全体意見が、他の小学校を選択することであれば、検討もしていく。</p> <p>がけ崩れの危険区域について、降雨量による避難について、避難場所について、がけ崩れ防止対策等について等は、次回に回答する。</p>
<p>比較表の評価の基準が分からない。</p> <p>現地を見ての評価か？</p> <p>教室は刈田小学校が広い。プールも刈田小学校が良い。</p> <p>【同様意見多数あり】</p>	<p>評価の詳細については、次回に回答する。</p>
<p>B&G プールを利用する場合、学校から通う方法は？</p>	<p>学校体育については、学校からバスで送迎を考えている。</p>
<p>登校距離が長くなり、徒歩通学ができない。</p> <p>スクールバスの無料運行をして欲しい。</p>	<p>通学について、公共交通が通っている路線は、公共交通機関を利用した通学で考えている。八千代町においては、案としては、バス路線での通学で考えている。スクールバスは、公共交通路線がない地域で、幹線道路での運行を考えている。</p> <p>詳細については、準備委員会での協議となる。</p>
<p>児童館の利用が不便。</p> <p>児童館に 2 校の受け入れが可能なのか？長期休業中だけでも、刈田児童館を開所して欲しい。</p>	<p>基本的な考え方は、統合校の敷地内または周辺に、希望する児童が通うことができる規模を整備したい。</p> <p>長期休業中の刈田児童館の運営要望については、運営経費の関係で、1 小学校 1 児童館で考えている。</p>
<p>中学校まで同じ関係が続くのでは、つらい思いをする子どもが出るかもしれない。</p>	<p>子ども達は多様な価値観と出会う必要がある。ある程度の適正な規模は必要と考え、過小規模・複式学級を解消することを一つの目的に、規模適正化を進めている。複式学級においては、一人の担任が 2 つの学年を半分づつ教えるという実態があり、教育条</p>

	<p>件での不利を解消しようというもの。</p> <p>1 小学校 1 中学校になることにより、集団が固定化して人間関係が固まってしまうことは、デメリットであることは否定できないし課題として認識している。一方、子ども達がお互いをよく理解し、あうんの呼吸で育っていくメリットもある。小中学校が 1 校づつとなれば、小中連携もしやすくなる。</p> <p>小規模校にも、1 小学校 1 中学校にも、メリットもあればデメリットもある。デメリットについては、教育内容を工夫することにより解消する努力を行う。</p>
<p>統合にあたり、子ども達のメンタル面の配慮をして欲しい。吸収統合の雰囲気があり、子ども達がスムーズに新しい学校になじむようにして欲しい。</p>	<p>統合前 1 年間は、全ての学年において交流活動を活発に行い、人間関係が結ばれるよう交流による事前準備を行う。</p> <p>複式学級においては、統合後単式学級に戻るため、統合前 1 年間は加配教員をつけ単式学級に戻して、教育課程を単式に戻し、根野小学校と授業が違わないようにする。</p> <p>人事面においては、統合においては両校から教職員を配置したい。また統合後最低 1 年は加配教員をつけ、子ども達にきめ細やかな指導が行われるよう配慮したい。</p>
<p>支援学級の子ども達への配慮をして欲しい。他校の保護者の意見も取り入れたい。</p>	<p>特別支援学級の子ども達に対しても、当然配慮していく。</p> <p>他校の保護者との意見交換も、合意形成がなされれば、担任同士・保護者同士の交流も考えていきたい。</p>
<p>統合前の 1 年間は、全学年単式学級に戻るのか？</p>	<p>平成 24 年度の県の制度として、統合が決まっている場合、1 年前から教員を加配して単式学級に戻す制度がある。未来永劫に続くかは確約できない。</p>
<p>児童数が少ない場合は、必ず複式学級になるのか？</p>	<p>国の基準、県の学級編制基準がある。隣り合う 2 つの学年の児童数合計が基準以下だと、2 つの学年で複式学級を組むことになる。</p> <p>1 年生を含む場合は 8 名まで、2 年生以降は 16 名までは複式学級になる基準が有り、それに基づき県が教職員を配置する。</p>
<p>統合が行われた美土里町においては、どのような議論がされ、どのように問題を解決し、現在どうなり、どんなメリット・デメリットがあったのか？資料を示して欲しい。</p>	<p>次回までに可能な限りの資料を準備する。</p>

<p>美土里町においては、バス通学はどうなっているのか？学校跡地の活用は？</p>	<p>資料を準備する。 美土里町は路線バスでの通学となっている。距離は3km以上。通学費の助成を行っている。 校舎について、そのまま残っているのは1か所。他は解体後、集会所等を建てられている。</p>
<p>統合する際に、根野小学校・可愛小学校が選択できるようにしてほしい。</p>	<p>今日ここで、「できる・できない」の回答はできない。現在の市の制度について、次回資料提供を行う。</p>

⑤ まとめ

<p>教育長から</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 学校規模適正化検討委員会を設置し、将来の学校教育のあり方についての答申を頂き、市長をトップとした学校規模適正化推進本部で推進計画を策定した。 ② 今日の意見要望を、推進本部において報告し議論して、改めて回答する場を設けたい。 ③ また、意見要望の内容については、準備委員会の部会において、議論いただけるものと考えている。 ④ 現在の財政状況では、学校統合に伴い新しい学校を整備することは難しい。新しい学校を創っていくといっても既設校に通うことになるので、吸収されるという思いが出るのも理解する。 ⑤ 地域に統合校の選択を委ねることは、地域に無用な混乱を引き起こす恐れもあるため、基準を設けて既存の学校から選択したのもやむを得ないことと理解いただきたい。 ⑥ 今後とも、意見交換を引き続き行っていきたい。
--------------	--

八千代町内の2小学校比較表

評 価 項 目		各学校の評価	
		刈田小学校	根野小学校
5年後児童数	計画の最終年度児童数	△	◎
青年人口	将来の児童数見込み	△	◎
学校位置	町域全体から見た位置	○	○
	公共的施設等との関係	○	○
通学	5年後児童の総通学距離	△	◎
	通学路の安全	○	○
学校施設	校舎の新しさ	○	◎
	校舎耐震性	◎	◎
	教室面積	◎	◎
	校舎全体面積	○	○
	体育館の新しさ	○	◎
	体育館面積	△	○
	プールの新しさ	○	○
敷地条件	敷地面積	△	○
	グラウンド面積	◎	◎
	敷地の形状	◎	○
自然環境	騒音・日照等の環境条件	◎	◎
	災害に対する安全	◎	がけ崩れ

上記の評価と総合評価を合わせ、根野小学校を選考

7. 甲立小学校区（甲田町：甲立小学校 PTA 保護者会・小学校区内保育所保護者会）

① 開催日時：平成 24 年 10 月 24 日（水）19:30～21:10

② 参加人数：16 名

③ 説明内容

教育長から	これまでの経過の説明。
教育総務課長から、統合に関する準備委員会の説明	小学校統合準備委員会の仕組み・内容を、別紙資料（船佐小学校と同じ資料）により説明

④ 会場からの質問・意見の概要

意見・質問の主旨	回 答
通学について、市からスクールバスは出るのか。通常運行のバスに乗るのか？	通学については、準備委員会で最終協議する。 教育委員会案としては、公共交通が通っている路線は公共交通を利用し、路線のない学校区からは、幹線道路にスクールバスを運行するように考えている。 バス利用の距離は 3km で検討している。 甲田町では、甲立小学校区の深瀬地区、糠地地区、浅塚地区の 3 km 以上の児童はバス通学、小田東小学校区からの通学では、長屋・高地地区の 3 km 以上の児童にスクールバス、小田小学校区からの通学では、スクールバスで検討している。
通学費については、市の負担なのか？	バス通学・スクールバスの運行を市で負担するか、保護者負担を求めるかは、将来にわたり持続可能な制度を、具体的に検討中である。 また、現在各学校で制度が違う実態を、学校統合に先立ち、市内統一したい。
遠距離通学の 3km は、直線距離か道のりか？	校門から自宅までの道のりで考えている。
現在甲立小学校は、100%のバス補助であるが、制度が悪くなるのか？	バス通学と補助は、それぞれの学校の統合の歴史、学校統合の条件により生まれてきた。よって、学校により制度が違っている。距離も違うし補助率も違う。 今回、全市にわたる学校統合計画を策定し、市町村合併も 10 年にもなるので、市内の通学制度の統一を図りたい。統一すると、新たにバス通学ができる地区もあり、将来に持続できる制度で考えたい。 市内全域での義務教育を考える場合、無理をお願いする場合もある。なるべく、保護者の負担を軽くすべく考えたい。

<p>統合に伴い、運動場や体育館の充実の予定はあるのか？</p>	<p>学校の施設整備については、統合に際し必要となる施設については、最善の方法で考えたい。 現甲立小学校の運動場については、3校統合しても利用に支障がないと見ている。 体育館については、3校統合すると幾分面積が不足することも考えられるが、現在耐震化工事やトイレのリニューアルも行っている。面積を広げるには、場所を移動しての新築となるため、今後検討したい。</p>
<p>水はけの悪い運動場を、統合の機会に改善して欲しい。</p>	<p>グラウンドは、河川堤防と学校の建物に囲まれ、表面水が抜ける水路がなく、また、河川の近くでもあり地下水位も高いことが原因と見ている。 グラウンド地中に集水管を入れ、江の川に抜けばよいが、河川管理上新しい排水を川に抜くことは無理と考えている。 土木部局に相談しながら、改善方法を研究したい。</p>
<p>現在町内の児童クラブ利用者は？統合時の定員は？施設は？費用は？</p>	<p>放課後児童クラブについても、準備委員会で最終協議する。 原案としては、統合校の敷地内か周辺に、希望する児童が通所できる規模を整備する。運営は現NPO法人で考えている。 現在利用者は73名、統合後の予定定員100名、新設で考え、整備費用見込みは約60,000千円で、国・県補助金、市費で見込んでいます。</p>
<p>それぞれの学校で行ってきた、地域との交流はどうか？</p>	<p>地域での体験を通じた学習は、学校教育にとって重要な教育であるという基本認識に立っている。 甲立小学校の「梨学習」は、梨を育てる過程を地域の方から教えていただいたり、疑問を自分で調べたりという目的を持ち、地域に対する愛着、人との出会いの中で命の大切さ、感謝の心を学んでいく大切な学習である。 準備委員会の教育振興部会において、どういう形で残すか研究していきたい。 地域学習については、「オール安芸高田」でふるさとに愛着を持ち、誇りを持つ人材を育てていく必要がある。安芸高田のハンドボール・サッカー・神楽など、「オール安芸高田」の視点を持ち郷土理解学習を進めていきたい。</p>
<p>昨年の説明会で、5年以内には統合という感覚を持った。</p>	<p>昨年の計画書の説明において、説明を急ぎすぎたかもしれない。誤解があればおわびする。</p>

	<p>学校統合は、地域・保護者の合意を得て円滑に進める。合意のないまま強引に進めることはない。</p>
<p>5年という期間設定はどこから来たのか？</p>	<p>児童数の推移を見ると、平成28年度には市内13小学校のうち5校で複式学級になる危機感からきている。</p> <p>一般的な計画は、3年・5年・10年という設定が多いが、学校統合の実例を見ても計画期間より長い年月が必要になっている。10年先の目標では、子ども達の教育環境整備・複式学級の解消が遅れる。</p>
<p>統合相手校での説明会の状況は？</p>	<p>保護者・地域・世代で様々な意見がある。保護者においては、子ども達を多人数の中で育てていこうという考え方については、ある程度の理解を得たと感じている。</p> <p>統合を前向きに考えていただくと、具体的な心配や質問・意見も出る。統合校の選択で児童数の少ない学校を選択している地域では、選択の理由の説明を求められる。各学校を評価する市内共通の項目で、客観評価して市行政の責任で選択した。</p> <p>未だ、市内で準備委員会の設立がなされた地域はない。</p>
<p>統合すると、児童数が倍以上になる。学校施設は大丈夫か？管理運営はできるのか？計画の策定に当たっての、具体的な前提を示して欲しい。</p>	<p>学校施設・備品については、準備委員会に基本計画を提示し議論をいただく。</p> <p>計画策定時には40人学級であったが、現在学級編制基準が35人学級へと動いている。このままでは、甲立小学校に統合するとなれば、教室が不足する状況も予想できる。文科省の学級編制基準の動向、児童数の推移を見ながら、必要になる施設・備品について検討して基本設計を組み立てたい。</p> <p>管理運営については、必ず行わなければならない。統合により各学年人数が増えるが、教室は40人学級を想定して作られている。</p> <p>学級の適正規模を20～30人としているため、31人以上の学級には学習補助員を配置するなど、きめ細やかな指導体制を組みたい。</p>
<p>学校統合が最も関係する就学前の保護者に対する説明は？</p>	<p>今年度の小学校の保護者会説明会には、学校区内の保育所・幼稚園保護者にも案内している。また、要望のあった保育所等には、独自に出向いている。</p>
<p>今回の計画推進は、誰の責任で行うものか？国・県・市の方針が変わる</p>	<p>市の義務教育は、教育長が責任を負っている。</p> <p>義務教育は、文科省の方針を踏まえながら、市教委</p>

<p>と、この計画も変わるのか？</p>	<p>で進めている。 今回の計画は、少子化の中、将来に生きる子ども達の、より適切な教育環境を整えるために計画したものの。計画推進の責任は教育長にあるが、オープンにしながら取り組みたい。</p>
<p>学校の統合に当たっては、教育に対する熱意と、様々な条件整備に要する経費に対する市民理解が必要となる。 児童のいない市民の理解を得る必要もあり、保護者も条件について妥協点を見つけていく必要がある。</p>	<p>意見として傾聴</p>
<p>保護者は統合のメリットが見えていないし、統合による不安も解消されていない。 保護者も主体的な取り組みが必要である。議論を積み重ねて、汗をかき、不安を除いていかなければならない。準備委員会の専門部会が一番重要である。ここに時間とマンパワーを注ぐべき。</p>	<p>一番避けたいのは、行政対保護者、行政対地域の構図になること。 保護者も主体的に、どういう教育環境にしていくかを単Pで議論を頂き、準備委員会に意見提言して欲しい。 委員の人数については、今後の状況を見て、必要であれば再考していく。</p>

8. 根野小学校区（八千代町：根野小学校 PTA 保護者会・小学校区内保育所・幼稚園保護者会）

① 開催日時：平成 24 年 10 月 25 日（木）19:00～20:40

② 参加人数：28 名

③ 説明内容

教育長から	これまでの経過の説明。
教育総務課長から、統合に関する準備委員会の説明	小学校統合準備委員会の仕組み・内容を、別紙資料（船佐小学校と同じ資料）により説明

④ 会場からの質問・意見の概要

意見・質問の主旨	回 答
遠くからの通学についてはどうするのか？	通学については、準備委員会で最終協議する。 教育委員会案としては、八千代町では国道を通る公共交通バスで考えている。支援が必要な児童に対しては、現在検討中である。 通学や通学費の補助については、各学校の統合の歴史により、違う制度となっている。市町合併 10 年を迎える時期にもなり、学校統合に先立ち、こうした違う状況を市内統一したい。
いつごろ統合するのか、はっきり知りたい。	計画書においては、計画推進期間を 5 年間としているが、目標年度であり統合の期限ではない。 計画の円滑な推進において、保護者・地域の合意形成を図るとし、丁寧な説明を行い、合意形成を図って、次の準備委員会の段階に進みたい。 市内で準備委員会が立ち上がった地区はない。
準備委員会の委員は、刈田・根野小学校で半分づつか？	八千代町で言えば、地域振興会の代表の方がそれぞれの学校区から 1 名、小学校保護者代表がそれぞれの学校から 1 名、保育所と幼稚園保護者の代表がそれぞれの学校区から 1 名、2 小学校の校長、八千代中学校の校長で、合計 9 名を考えている。
幼稚園には町内広くから通っている。情報が幼稚園に伝わらない場合も有り、幼稚園の保護者代表を委員に加えて欲しい。	検討する。
質問・意見交換をしても、準備委員会で検討するとの答えで、意見交換の糸口にならない。	教育委員会において、統合の基本計画を作り準備委員会に提示する予定である。 早くから統合条件を知りたいということは理解する

	<p>が、行政で決め承諾を求めていくのではなく、保護者・地域の主体的参画を得て、新しい学校を創っていききたい。</p>
<p>準備委員会の庶務は、教育総務課となっているが、体制はどう作るのか？</p>	<p>教育総務課において、専門の班を作っていく予定である。教育だけではなく、施設整備など様々な分野が必要となる。</p>
<p>統合予定校での、具体的な意見の内容は？</p>	<p>地域が寂れるという意見、町の中心部に新しい学校の整備を求める意見があった。また、中学校の統合を先に行い、現在の中学校を活用するという意見も出た。</p> <p>また、学校を見学された感想から、教室面積、図書室面積が狭いといった意見があった。</p> <p>統合校の選考に当たり、評価項目に対する質問が出た。なかでも、急傾斜地崩壊危険箇所として公表されている学校をなぜ選択するのかという質問が多く出た。これに関しては、現根野小学校の用地の造成は、昭和 61 年当時の国・県の技術基準に基づき造成しているが、その後の阪神淡路大震災、広島県を襲った集中豪雨に対応するため、基準が厳しくなり、結果として県から急傾斜地崩壊危険箇所として公表されたが、「恐れがある」という表現で「警戒区域」というものではない。図上だけで調査されたもので、今後県に確認して、防災対策の指導も受けながら、安全安心に取り組みたい。</p>
<p>統合にあたり、子ども達の率直な意見も聞いてみたい。</p>	<p>子ども達の発達段階もあり、意見として持ち帰り、検討したい。</p>
<p>学校区が広がると、子ども達の遊びも広がる。遠くまで行くようになると心配である。</p>	<p>準備委員会の教育振興部会において、校則や「生活のきまり」などを決めていくようになる。</p> <p>安全安心は最優先に考えていくが、あまりに制限を加えることが、子ども達の将来にとり良いことか検討していきたい。安全安心を大事にしながら、のびのび育てていく方向で、学校と保護者で意見交換したい。</p>
<p>1 町 1 プールの方針を変更して欲しい。学校プールは学校の近くにあるべきで、移動時間が必要となり、学習時間が短くなる。</p> <p>準備委員会で必要との意見になった場合は、新築してくれるのか？</p>	<p>将来的に、プールの新築が必要になった場合・大規模な修繕が必要となり市財政に影響を与えるようになった場合の方針である。当面は、工夫を加えながら維持をしている。</p> <p>B&G プールも、将来に対する維持、職員の体制を約束して誘致をしたものである。</p>

<p>【同様意見多数あり】</p>	<p>市町村合併 10 年を過ぎると、国の交付税の優遇措置も終了して、5 年間で約 22 億円減少する。行政としても、職員定数の減少など行財政改革を行っている。的を絞った施策の執行が必要である。 準備委員会では、方向性を決めてもらうが、財政負担を伴う予算の提案などは、市長の判断となる。</p>
<p>準備委員会では、予算を伴う案件協議が多くある。議会から委員委嘱する予定はないのか？ 保護者・地域の委員だけでは、全市民的な見地での議論にならないのではないか？</p>	<p>準備委員会においては、施設整備など予算が必要となる協議が多くなる。 こうした委員会に、議会から委員委嘱したのでは、予算を審議する議会において審議が難しくもなり、学校統合については、議会からの委員は予定していない。</p>
<p>通学路の危険箇所調査が行われたが、今後の取り組みは？</p>	<p>危険箇所については、解決方法ごとに関係機関に要望し、改善方法の検討を行ってもらっている。 教育委員会においても、担当部分の対策検討している。</p>

9. 可愛小学校区（吉田町：可愛小学校 PTA 保護者会・小学校区内保育所保護者会）

① 開催日時：平成 24 年 11 月 19 日（月）19:00～20:20

② 参加人数：22 名

③ 説明内容

教育長から	これまでの経過の説明。
教育総務課長から、統合に関する準備委員会の説明	小学校統合準備委員会の仕組み・内容を、別紙資料（船佐小学校と同じ資料）により説明

④ 会場からの質問・意見の概要

意見・質問の主旨	回 答
今後のスケジュールや説明会は、どのように計画されているのか？	平成 23 年度に全ての小学校保護者会と、多くの地域において説明会を開催した。昨年度の説明で、平成 28 年度には学校統合を行うと受け止められた市民が多いが、目標期間であり期限ではない。保護者・地域の合意、協力を得ないと進められない。今年度も引き続き丁寧な説明を行っていく。
説明会での意見集約や、保護者・地域への周知はどうするのか？	説明会での質疑応答については、量が膨大なため市のホームページに載せている。今後は各小学校に印刷した物をファイルにして設置するのでご覧いただきたい。
統合すると教室の不足が起きるが、どのように対応するのか？	統合においては、学校設備・備品など諸準備が必要となる。 児童数見込みでは、現可愛小学校校舎においては、平成 30 年度まで最大で 4 教室不足すると予測している。31 年度を過ぎると 1 学年 1 学級になり、不足は解消されると見込んでいる。 平成 24 年度の学級編制基準は、1・2 年生 35 人学級、3 年生以上 40 人学級であるが、来年度以降の基準について、政権や国の方針が不透明で定まっていない。今後、国や県の学級編制の考え方、児童数の推移などを見極めながら、不足する施設をどういう方法で整備するか適切な判断をしていきたい。
受け入れに対する行政支援策は？	（仮称）愛郷小学校という名称に示すように、2 つの小学校で新しい小学校を創っていく考え方である。校名や学校の経営方針など、準備委員会で協議して全てを新しく創っていく。 設備や備品なども必要なものは整備したい。グラウンドや体育館は、現在の利用実態から見れば、支障な

	<p>いものと考えている。</p> <p>子ども達への支援策については、統合が決まれば1年以上前から交流活動を行う。統合時点の人事面においても、子ども達が不安にならないように配慮も可能と考えている。統合後も、子ども達が一つの集団になじんでいくように、県の制度を活用しながら教職員を手厚く配置したい。</p>
<p>現可愛小学校は、夏休みの放課後児童クラブの利用が多い。統合後はどうなるのか？</p>	<p>担当課と協議し基本方向を定めた。統合校の敷地内か周辺に、希望する児童の全てが通うことのできる規模を整備するというもの。</p> <p>可愛・郷野地区では、現可愛小学校の敷地内か周辺に整備して、運営は現在のNPO法人で考えている。現利用児童は、可愛小学校48名、郷野小学校18名であるが、夏休みの利用を考え100名定員で考えている。</p>
<p>郷野からの通学についてはどう考えているか？</p>	<p>国道54号線を路線バスが通っているので路線バスを利用した通学で考えている。</p> <p>バス通学できる距離は、学校から自宅まで3kmと考え、遠距離通学の助成制度も検討している。</p>
<p>説明会での質疑応答を見たいが、市のホームページを見る機会がない。これから小学校に入学する保育所幼児の保護者が一番知りたいのではないか？</p> <p>保育所、幼稚園、公共施設に質疑応答を配置したり、お太助フォンを活用するなど広い周知を要望する。</p>	<p>質疑応答については、量が膨大であるため、各家庭に配布することは困難である。</p> <p>お太助フォンでの情報伝達も、画面が小さく適していない。</p> <p>保育所や施設への配置については検討する。</p>
<p>通学について、停留所から自宅までの徒歩通学の安全安心に留意した通学方法を考えて欲しい。</p>	<p>停留所から自宅までは徒歩通学となるため、見守り隊に引き続きの支援をお願いし、子ども達の安全安心の確保を図りたい。</p>
<p>統合の相手校では、保護者の不安が大きいと聞いている。</p> <p>様々な課題・不安に対して教育委員会の明確な回答がないために、不安が大きくなっているのではないか？</p>	<p>今回の計画は、5年先・10年先の安芸高田市の教育のあり方はどうあるべきかを考えて、子ども達が切磋琢磨できる環境を整備していこうとするもの。</p> <p>児童も保護者もそれぞれに現在の学校が大好きであるので、なかなか理解いただけないのが現実である。</p> <p>保護者・地域の皆さんの合意がいただけるまで、説明・意見交換を続けたい。</p>
<p>準備委員会の設置時期は？</p>	<p>説明・意見交換を重ねる中で、議論も煮詰まり実質的な話に入ろうということになれば、準備委員会設</p>

	置の提案をしたい。各学校で温度差があるが、いずれかの段階では準備委員会設置の提案をしたい。ただし、強引に説明会を打ち切り、準備委員会を設置する考えはない。
準備委員会での協議には、長い期間が必要と考える。準備不足の状態です統合しないよう、準備には十分な期間が必要。	計画期間の平成 27 年度末は目標期間であるので、準備委員会には十分な協議期間を設けたい。
学校統合も必要と考えるが、子どもたちを増やしていく施策も必要である。小学校への就学は、故郷に戻ってくるきっかけである。帰ってきたいまちづくりを望む。	意見として傾聴

10. 郷野小学校区（吉田町：郷野小学校 PTA 保護者会・小学校区内保育所保護者会）

① 開催日時：平成 24 年 11 月 20 日（火）19:30～21:20

② 参加人数：23 名

③ 説明内容

教育長から	これまでの経過の説明。
教育総務課長から、統合に関する準備委員会の説明	小学校統合準備委員会の仕組み・内容を、別紙資料（船佐小学校と同じ資料）により説明

④ 会場からの質問・意見の概要

意見・質問の主旨	回 答
統合したら金管バンドはどうなるのか？	学校で独自に行っている教育活動をどう守っていくかは、大きな課題である。各学校が歴史を積み重ね伝統的に守ってきた教育活動や、積み上げてきたものは大事にするというのが基本である。 各学校の特色ある教育課程を、新しい学校にどう生かすかは、準備委員会の教育振興部会で議論をしていく。
スクールバスはどこまで来るのか？ 国道だけなら、国道から離れている家は保護者が送り迎えしなければならない。	通学方法は、これまでのその学校の統合の歴史により、まちまちな方法になっている。今回の全市的な学校統合を機に、市内共通の方法・助成策を定めたい。 準備委員会で最終協議するが、現在の原案は、公共交通が通っている地域は公共交通を利用した通学、路線のない地域にはスクールバスを運行するよう考えている。距離は、学校から自宅まで 3km 以上で考えている。 郷野小学校では、国道に路線バスが通っているので、学校まで 3km 以上の児童は路線バスを利用した通学で考えている。 通学費の助成については、保護者に負担を求めるか、求めないか、具体的試算を行い検討中である。
徒歩通学の場合、安全は確保できるのか？見守り隊の方には継続してもらえるのか？	通学の安全安心確保は、統合における最重要課題の一つである。バス停から自宅までは徒歩通学となるため、学校を通じて、これまで通り見守り隊の支援を要請したい。
将来児童が少なくなった場合、スクールバスが廃止され保護者負担になることはないのか？	郷野地区の通学は、国道を通る路線バスで考えている。通学に対する助成策については、将来のことまで約束することはできないが、過去、旧町・新市で

	<p>人数が少なくなったからという理由で助成を打ち切った例はない。</p>
<p>子どもが望んでいない学校統合には反対。子ども達は郷野小学校が大好きである。</p> <p>子どもの数は減るが、将来を見たときに、学校は地域に必要である。学校がなくなれば、若者も地域から離れる。</p>	<p>学校統合後に子ども達にアンケートをとった多くの例がある。子ども達にとって概ね良い結果となっている。多人数になることにより、友達が増えた、授業やクラブ活動に活気が出た、ダイナミックな活動ができるようになったというもの。</p> <p>学校規模適正化委員会の答申では、望まれる規模は1学年複数学級・1学級 20名から30名程度とされた。小学校においては、児童の通学負担や地域との交流を考慮し、町をまたいでの統合は計画していない。</p> <p>市も全ての施策を、人口の増加のための施策と位置づけている。光ネットワークの整備も、情報基盤整備を行い、企業誘致・若者定住に結び付けようというものである。</p> <p>地域に学校は必要であるという意見については理解をするが、子ども達も年々歳を重ねている。未就学の児童・これから生まれてくる児童のことも考え、将来を見据えた議論をいただきたい。</p>
<p>子どもの人数が少ない。わが子は「大丈夫。」と言うが、「他の学校にはたくさんの方がいていいな。」とも言う。他の小学校に行くのは地域として寂しいが、子どもなりに複雑な思いもあるようだ。</p>	<p>意見として傾聴</p>
<p>自分自身郷野小学校の卒業生であり、子どもにも同じ環境の中で学んで欲しい。地元で子どもの声が聞こえなくなるのは寂しい。</p>	<p>現在の保護者が小学生の時代には、郷野小学校も児童総数は100名程度で、1学年も15名から25名程度であったと思う。現在は、児童総数60数名、1学年9名から13名となった。平成29年には複式学級になることが予想され、1学年5名程度になると統計では示されている。</p> <p>児童を取り巻く学習環境や生活環境は大きく違っている。こうした教育環境が適切であるかを、保護者も議論いただきたい。</p>
<p>江の川の反対側から54号線のバス停まで歩くのか？橋が少なく、どこのバス停に行っても2~2.5kmある。地形に合わせた、通学方法を検討し</p>	<p>乗降するバス停は、学校に届け出られる通学路によりきまってくる。</p> <p>通学するにあたり公共交通路線がない学校区にはスクールバスを運行する予定であるが、公共バス路線</p>

<p>て欲しい。 【同様意見多数あり】</p>	<p>が運行している学校区は、公共バスを利用しての通学で考えている。 公共バス路線も、市民の移動を支援するため補助金を交付して路線を維持していく必要がある。こうした路線にスクールバスを並行して運行することは、経費の二重の負担になる。 市としては、市全体を見通した考え方で原案を作成している。</p>
<p>説明ではなく、結果の報告会になっている。保護者として、統合に関して具体的に見えてこない。不安である。もっと、地域や保護者の意見を聞き、丁寧な説明が不足している。</p>	<p>平成 23 年度と今年度は、市が作成した「学校規模適正化推進計画」の周知を行っている。統合に関する統合条件を具体的に保護者や地域と話し合っていくのは、合意を得た次の段階である。</p>
<p>「郷野」という名称は小学校だけに残っており、地域の合意も必要。 小規模校にもメリット・デメリットがある。少人数は、先生の目が児童に行き届き、児童も素直に成長していると感じている。 デメリットとされる「活気がない」は、児童数だけが原因ではない。郷野小学校では、子ども達も活気があり、地域とも触れ合っている。 学校統合を進めると、若者も人数の多い学校付近に集まるようになる。学校がなくなると若者も帰ってこれない。</p>	<p>意見として傾聴</p>
<p>合意がないと進めないということであるが、合意の条件は？</p>	<p>何割の賛成があればというような数字では表せない。意見交換を続ける中で、保護者・地域の思いが統合は時期尚早・現状のままの義務教育ということであれば、適切な判断をしたい。平成 28 年度には一斉に統合ということではないが、これからの社会を生きて行く子ども達にとって、今できる最善の教育環境はどうあるべきかを議論させて欲しい。</p>
<p>【1 保護者から、会場の保護者に対して質問】 会場の保護者の意見を聞きたい。 郷野小学校を存続させたい保護者、統合を希望される保護者はそれぞれ</p>	<p>学校を存続させたい保護者＝2/3 程度が挙手。 統合を希望される保護者＝1/3 程度が挙手。</p>

挙手願う。	
保護者にも色々な思いがある。意見交換をしっかりと行い進める必要がある。	保護者にも色々な意見がある。 こうした意見を全て教育委員会で受け止めることは無理があるので、保護者会でも、内部で意見交換をして欲しい。
統合校である可愛小学校においては教室が不足すると聞いたが？	可愛小学校は1学年1クラスで校舎を作っている。 統計上、統合すると平成30年度まで最大で4クラス教室が不足する。 今後の学級編制基準の動向や児童数の推移を見ながら、永久的な施設を整備するか、一時的な仮設対応か、良い方法を考えたい。
郷野小学校の耐震診断の結果は？ 郷野小学校の耐震工事は行うのか？	校舎は耐震性が不足するという診断が出た。体育館は新しい耐震基準でできている。 木造校舎の耐震化例を見ると、基礎からやり変えたり、鉄骨の柱を入れたり、窓枠を変えるなど、姿を変えることが多い。耐震化原案を作る予定である。
統合後の放課後児童クラブは6年生まで利用できるのか？可愛小学校の放課後児童クラブは利用人数が多いと聞いている。現在は、土曜日でも利用可能で、18時30分まで利用可能。また、勤めているので可愛小学校にある放課後児童クラブに迎えに行かれない。郷野にも放課後児童クラブを残して欲しい。利用条件については歩み寄ってもらえるのか？	統合校の敷地内か周辺に、希望する児童が全て通うことのできる施設を整備する。統合後は100名規模で考えている。利用は6年生までで考えている。 統合条件については最大限の努力を行うが、現在、地域により制度がバラバラなものも多い。現状を全て残していけるか約束することは難しい。 準備委員会での協議には、関係部局も出席をして具体的な協議に入る。保護者会の意見と取りまとめて、準備委員会に提案して欲しい。 合併10年を経過すると地方交付税が大きく減少する。厳しい財政状況も考えて、1小学校1放課後児童クラブで考えている。
具体的な事項について質問すると、その答えだけ返ってくる。全体像が見えなく不安である。 合意するにも全体資料がないと判断できない。	これまで市内の説明会で回答してきた、基本原案をまとめた資料を、11月中には保護者に配布したい。 説明会での質疑応答については、学校・保育所・幼稚園等に送付するので、閲覧いただきたい。

11. 川根小学校区（高宮町：川根小学校 PTA 保護者会・小学校区内保育所保護者会）

① 開催日時：平成 24 年 11 月 21 日（水）19:30～21:30

② 参加人数：15 名

③ 説明内容

教育長から	これまでの経過の説明。
教育総務課長から、統合に関する準備委員会の説明	小学校統合準備委員会の仕組み・内容を、別紙資料（船佐小学校と同じ資料）により説明

④ 会場からの質問・意見の概要

意見・質問の主旨	回 答
すぐに統合するのではなく、色々試行錯誤して欲しい。平成 23 年度から始まった「集合学習」について、教育委員会としては、どのように検証し、今後の方向はどう考えているか？	「交流学习」については、児童の交流を図る視点では大変効果的であった。高宮町内 3 小学校は、4 年生から 3 年間で、段階的に交流が深まっている。回数・時間については、今年度の年間 3 回が適切で、限度といっても良い。大変効果がある学習であり、継続していくためには無理のない計画で実施したい。
中学校は生徒数が少なく、クラブ活動が成り立っていない。 中学校の統合を先にすれば、跡地利用ができ、小学校の位置も決まってくる。 中学校の適正規模・適正配置の考え方は？	中学校の統合も検討しなければならないが、計画書においては小学校を先に検討することとしている。 中学校は、市内 2 校という数字だけ示している。 中学校は町をまたいだ統合となり、位置の決定、通学方法の検討など課題が多く、具体的な計画には時間を要すると見込んでいる。 中学校校舎は、小学校校舎の施設基準と違う。例えば階段の蹴上がり高などが違ったり、黒板等の高さも違い、改修工事が必要となる。
他地域での進捗状況や意見などを聞きたい。特に船佐地域や来原地域。	現在市内で準備委員会が設置された地域はない。今年度も、計画の説明や意見交換を行っている。 両地域における主な意見等を報告。
統合して子ども達が集まった場合、例えば神楽なども文化や指導者も違う。こうしたちょっとしたことから、トラブルやケンカが起きてもいけない。交流を増やすことが必要ではないか？	「交流学习」は効果が高く長く続けたい。長く続けるためには、無理のない計画が必要である。続ける中で、児童や学校の様子を見て考えたい。 神楽やはやし田を材料にした文化交流については、良いアイデアをいただいた。学校とも話して、考えてみたい。
中学校の統合について、具体的検討はないのか？	位置を含め白紙の状態。
統合した場合、特色ある教育活動、川根小学校の一輪車はどう継承され	川根小の一輪車や船佐小の太鼓などは、現在授業の一環として行っている。

<p>るのか？</p>	<p>各学校の教科学習の中で行っている伝統的な教育活動を、どう新しい学校の教育課程に生かしていくかは、準備委員会の教育振興部会で検討していきたい。しかし、学校が主体で行う教育活動と、地域が主体で行う教育活動は分けて考える必要がある。</p>
<p>統合校の位置については、高宮町全体を考える場合、難しい選択になる。小学校全て新しい校舎でもあり、定期的に現在の3小学校を回る方法もあるのではないかと？ 北広島町の壬生小学校は校舎を建てるため、1年間だけ廃校となる南方小学校に仮住まいする。南方の地域は大変喜んでいと聞いている。研究してみたい。</p>	<p>意見として傾聴</p>
<p>中学校のクラブ活動など活性化の必要性が叫ばれている。 計画書には数まで示されているのに、白紙の状態というのは遅すぎる。子どものことを考えても、小学校で統合を経験し、中学校でも経験することも考えられる。中学校を先にすれば課題は出ない。</p>	<p>中学校の統合を先にするという意見には、一理あるし一つの方法と考える。中学校統合は旧町をまたいでの統合となり、意見も大きく分かれることも予想される。今、中学校の統合を具体化しても、「総論賛成各論反対」で意見集約ができない混乱も生じると考えられる。 中学校の統合についても、保護者会などで議論いただき、保護者会の案として提案いただけるようだと前進するものとする。 中学校統合の時期については、こうした大きな課題や、心配頂くような子ども達の不安もあり、小学校統合からはある程度の期間が必要と考えている。</p>
<p>美土里町の小学校統合における、良かった点、悪かった点を、教示して欲しい。</p>	<p>統合により一番良かった点は、人間関係・学力・体力が大きく向上したこと。 規模が大きくなり人間関係が心配されたが、子ども達は柔軟で、関係が広がってもちゃんと付き合っていけることを教わった。 学力についても、子ども達が切磋琢磨・刺激し合う中で、自らを高め合っていた。小規模がだめということではないが、子ども達にとって適正な集団規模というものは必要と感じた。 体力については、芝生の校庭ということもあるが、子ども達が同学年・体力が同じ子どもたち同士で思い切って遊ぶことにより体力も伸びたと考えている。</p>

	<p>課題とすれば、地域の高齢者から「子どもがいなくなり地域が寂しくなった」「地域の文化の拠点がなくなった」との声を聞いた。学校が地域に出て行く教育活動を進めることで、ある程度は解消をしていった。</p> <p>もう一つの課題は、通学手段の確保があった。</p> <p>課題解決に向けては、家庭・地域・学校・教育行政それぞれの役割の中で協力し合えば、良い知恵も生まれてくると考えている。</p>
<p>統合に関する課題が解決されるのであれば、統合には賛成する。</p> <p>同級生が少なく、友達もいない。他の学校には多くの児童がいるのに、子どもには分からない。</p> <p>友達も選べない状況であり、課題解決するのであれば統合して欲しい。一番早くて何時なのか？</p>	<p>いずれ準備委員会の立ち上げを提案したいと考えている。今後もしっかり意見をいただき、教育委員会で整理すべきは整理したい。</p> <p>高宮町では3小学校あるが、3校同時にはこだわらない。2校の合意があれば2校で準備委員会を立ち上げ統合に向かい、残りの1校については議論を重ね、合意形成ができた時点で移ればよい。</p> <p>統合準備委員会の協議期間は、他の統合例を見ると2年程度は必要と見ている。</p> <p>現行制度では、統合1年前に複式学級を単式学級に戻して、各学校の授業進度を合わす。</p>
<p>統合校では、学校経営方針として、何を目指しているのか？</p> <p>通学や特色ある教育活動、学校設備の方針も見えてこない。</p>	<p>教育委員会で全てを決めるのではなく、どういう学校にしていくかについては、準備委員会の教育振興部会で教職員を中心に考えていく。</p> <p>校名・校歌・通学などについては、総務部会で議論する。</p> <p>これらの部会を準備委員会で取りまとめる。</p>
<p>全国の少子化の状況からも、学校統合については、多くの保護者がやむを得ないと考えているか賛成だと思う。</p> <p>統合しても全てがメリットではない。教育委員会がどういう原案を作っているかが分からないので、皆が判断できない。</p>	<p>基本合意ができたなら、準備委員会にはこれまで出された意見を大切に、統合の基本原案を出したい。</p> <p>予算を伴うことであり、ここまでは可能、これ以上はできないなど示しながら、準備委員会で協議したい。</p> <p>今年に入り説明会で受けた質疑応答概要集を、11月中旬に保護者配布する予定である。</p>
<p>保護者以外にも、若者や市民に周知して欲しい。</p>	<p>質疑応答については、全て市のホームページに公開している。また、学校・保育所・幼稚園・文化センター等にも準備して、閲覧できるようにしたい。</p>
<p>保護者で早く話を取りまとめ、子ども達のために魅力ある学校づくりを</p>	<p>意見として傾聴</p>

していけば良い。準備委員会でしっかり話をして、保護者納得の上、入りたい学校、戻ってきたい学校を創ろう。そのためにも、準備委員会で具体的にしっかり時間をかけ話し合うことが必要。

12. 小田東小学校区（甲田町：小田東小学校 PTA 保護者会・校区内保育所保護者会）

① 開催日時：平成 25 年 1 月 25 日（金）15:30～17:00

② 参加人数：45 名

③ 会場からの質問・意見の概要

意見・質問の主旨	回 答
「適正」とは、何にとって適正なのか？	<p>児童生徒の減少が進み、学校の小規模化が進んでいる。こうした中、「教育効果を高め、教育の充実・振興を図る教育環境とは」という視点で、適正な学校規模についての意見をいただいた。</p> <p>答申として、望まれる学校規模として「人間関係の固定化を避け、多様な関わりの中で切磋琢磨してお互いを刺激しあい、多様な価値観に触れたり、良い意味での競争心が生まれる環境、集団での学習やスポーツ・文化芸術活動ができる環境≒1 学年複数学級、1 学級 20～30 名程度」という規模が示された。つまり、子ども達にとって義務教育における様々な面で、より望ましい適正な学校規模という意味で、「学校規模適正化」という文言を使用している。</p>
統合には基本的に反対である。	<p>平成 30 年の市内小学校児童数見込みによると、13 小学校のうち 5 校に複式学級があると予測している。甲田町においては、甲立小学校全児童数 65 名、小田小学校 41 名、小田東小学校 102 名と予測している。小田小学校においては完全複式になる恐れもあり、甲立小学校は児童数 1 桁の学年もでてくる。甲田町においては、2 校の小規模化が進むと予想される。学校の統合にはメリットもあればデメリットもある。甲田町全体の子どもの教育環境を考えていただきたい。</p>
なぜ少人数教育がいけないのか？	<p>少人数教育がいけないという論点ではない。少人数教育にもメリットもあればデメリットもある。デメリットの例としては、男女比のバランスの悪さが生むデメリットもある。複式学級についても、教育環境の面ではデメリットの一つ。教育環境においてデメリットがあることを放っておく事はできない。</p>
統合しても、小学校・中学校と同じ集団になる。もし 1 クラスであったなら、いじめがある場合など固定化するのではないのか？	<p>統合しても、小学校・中学校同じ集団になる場合もある。メリットとデメリットがあるが、質問の人間関係の固定化は一番のデメリットであると考えている。統合した美土里町や向原町では、学校教育にお</p>

	<p>いて多くの出会いが得られる機会を設定するように取り組んでいる。</p> <p>メリットとしては、義務教育9年間を一体に考え、子ども達が義務教育を終了するときの姿を小学校の教師も共有し、小中9年間で子ども達を育むような教育内容を組み立てることができる。合同授業や合同行事、中学校教師による小学校での授業、小学生の部活体験もしやすくなる。</p> <p>1 小学校 1 中学校で人間関係が固定する場合は、学校の努力、保護者の支援などを得て、デメリットを克服するよう努力していく。</p>
統合に当っては合意を前提とするところがあるが、合意しない場合はどうなるのか？	合意のないまま教育行政で強引に進めることはない。ただし、全員の賛成を得ることも難しい。行政として全ての説明をさせていただいた後には、準備委員会の設置を提案させていただく。
合意しない場合はどうなるのか？	合意が得られない場合は、小田東小学校のまま学校運営することになる。
計画では甲田町は1小学校となっているが、小田東小学校が合意せず、残りの2校が統合しようという場合は、2校で進めるのか？	例えば町内に3校ある場合に、必ずしも3校揃わなければならないとは考えていない。 2校で統合に進もうとまとまれば、2校が先行することも想定している。
準備委員会について、具体的にはいつ頃からどのように進めるのか？	計画においては、推進期間を平成27年度としているが、目標年度であり統合の期限ではない。 保護者・地域の合意形成をはかり、合意を得られたら準備委員会の設置を行いたい。
他の小学校の保護者会の考え方はどうであるのか？	市のホームページ：教育委員会に、これまでのすべての説明会質疑を掲載しているのでご覧いただきたい。計画では市内4統合区があるが、準備委員会が設置された地域はない。 甲田町においては、小田小学校では通学等の心配が出され保護者の不安を解消する段階にはいたっていない。引き続き保護者の不安を解消するよう説明を行っていく。
中国新聞に、学校統合が計画されている安芸太田町の児童・生徒の意見が掲載された。当事者である子ども達に意見を求められていないというもの。 子ども達の中でも話をするようで、	子ども達の価値観・世界観を大切にしたいという面と、子ども達の視野・経験が狭いという2面がある。 行政として、当事者である子ども達に意見を聞くことが良いかは結論を出していない。 子ども達にとってどういう教育環境を整備すべきかは、大人が責任を持つべきであると考えている。

<p>不安の中にあるようである。学校統合について子ども達に投げかける必要があるのではないか？</p>	<p>統合という方向がきまっても、実際の学校統合には2年程度必要となる。子ども達に対し、統合について話をする機会を持つように配慮したい。</p>
<p>統合校として甲立小学校が示されているが、変わらないのか？ 小田東小学校児童数が多い。通学に関しても遠距離通学児童が増えることになる。納得できない。</p>	<p>統合校の選考については、市で責任を持ち示した。中心地に新しい用地を確保し小学校を新設すれば、保護者も納得しやすいが、計画にある市内4統合区で整備するとなれば、財政負担を若い世代に繰り延べることになる。また、小学校も新しく活用できる施設でもあり、既存の学校から統合校を選んだ。統合校を選択するに当っては、18の選考項目を設定し、評価した。児童数や通学面においては小田東小学校が優っているが、統合すれば1学年2クラスになる学年も予測され、教室の増築も考える必要がある。総合判断で、現甲立小学校を選んだ。</p>
<p>統合する学校の保護者が、計画とは違う統合校を選択した場合はどうなるのか？</p>	<p>地域の総意として計画とは別の学校を選択された場合は、行政として検討させていただく。</p>
<p>統合すると通学距離が長くなり、不審者・交通事故等について益々不安になる。見守り等はどうか？</p>	<p>現在は遠距離通学については、3kmで試算し、3kmを超える児童は、公共交通が通っている路線は公共交通を利用した通学、通っていない学区からの通学はスクールバスでの通学を考えている。 小田東小学校区では高地・長屋地域が遠距離通学の対象となると見込み、県道にスクールバスを運行するよう考えている。小田小学校区からもスクールバスを考えている。 道のりで3km未満の児童はこれまでどおり徒歩通学となるが、見守り隊に引き続き支援をお願いするなど、安全・安心な通学に最大限の努力を行いたい。</p>
<p>バス通学になった場合は、費用は保護者負担なのか？</p>	<p>現在、市内各学校の通学制度はまちまちな制度になっている。統合を経験した学校にとっては通学が統合条件になったことによるものである。遠距離通学：バス通学の距離も違うし、費用負担も違う。学校統合とは別に、早期に通学方法・負担の統一を行いたい。 通学費の負担も市内まちまちな制度となっているため、将来にも維持できる市内統一制度を検討している。保護者負担をなるべく抑えるよう考えているが、もう少し検討時間をいただきたい。</p>
<p>向原小学校では自転車通学があるの</p>	<p>通学方法は、学校が保護者会と協議して決定してい</p>

か？	る。市内小学校において自転車通学は、川根小学校と向原小学校にある。
放課後児童クラブは、1 小学校 1 施設ということだが、甲田町ではどこに設置するのか？児童数が増えるが大丈夫か？	準備委員会で協議していくことになるが、原案としては、統合校の敷地内か周辺に、希望する児童が通所できる規模を整備するというもの。 甲田町では、統合校となる現甲立小学校の敷地かその周辺に放課後児童クラブを整備したい。運営者は現 NPO 法人で考えている。現在の利用者は 3 校で 89 名であるが、統合後の予定定員は 100 名で考えている。
放課後児童クラブについて、空きがなく募集も年 1 回で年度中途から申し込めない。統合すれば、待機児童が一層増えるのではないか？	3 校の定員数を見ながら統合案を作成している。具体的な定員等については、準備委員会で意見をいただきたい。
中学校の統合計画もあるが、もし甲田中学校が廃校になる場合、改修して将来の統合小学校にすることは可能か？	中学校の統合を先にという意見をいただくことがある。中学校は、市内 2 校という数字だけ示している。中学校は町をまたいだ統合となり、位置の決定など現段階では検討していない。 もし現甲田中学校を使用しないことになれば、今甲立小学校に統合し、甲田中学校が廃校となる時に小学校を移設することは理論的には可能である。 甲田中学校は、耐震化工事は完了したが、小学校校舎の施設基準と違うため改修工事が必要となる。なお、中学校校舎は小学校校舎に比べ 10 年以上古い建物である。
小田東小学校の耐震診断は終わっているのか？耐震化の予定はあるのか？耐震性のない学校に通わせるのか？	耐震診断は行った。耐震性が不足する結果であった。耐震化工事については、学校規模適正化計画と整合性を取るよう計画している。 学校規模適正化計画・学校耐震化計画も公表している。適正化計画によると小田東小学校は統合校にならないとし、現在まで学校耐震化は行っていない。学校耐震化計画では、小田東小学校の耐震化については、平成 26 年度以降とし年度を示していない。 校舎の転用計画を持っていないので、残らないと計画している校舎の耐震化工事を行うという、相反する施策は取れない。
小学校が廃校となった場合、更地にして何か施設が造られると思うが、維持管理はどこが主体となるのか？	現在の考え方として、グラウンドと体育館は地域の社会体育・地域振興・避難施設として残すように考えている。

<p>公園や運動施設にして欲しい。</p>	<p>校舎については、行政としては転用計画を持っていない。地域の知恵を頂き校舎を活用することになれば、地域に管理を委ねて利用いただくようになる。現校舎にしても、更地にした上での新しい施設でも、地域で維持管理いただくようになる。</p>
<p>市の平成 23 年度決算を見ると、教育費が大幅なマイナスになっている。適正化という名目で、教育にかける予算を減らそうとしているのではないか？児童数の減少という理由だけでは納得できない。</p>	<p>近年の教育費の決算を見ると、10 億円の単位で決算額が増減している。これは現在行っている学校の耐震化工事の増減によるものである。 平成 23 年度決算が前の年度に比べ減少したのは、22 年度には規模の大きい学校の耐震化工事を行っていたため、結果的に 23 年度決算額が減少した。けっして教育に要する費用を圧縮しようとしているものではない。</p>
<p>保育所の統合計画も聞いている。甲田町には保育所・小学校・中学校が近くにあるため定住してきた市民もいる。小学校等がなくなると、まちづくりに悪いイメージとなるが、まちづくりについてどう考えているのか？</p>	<p>保育所も規模適正化計画を策定し、各保育所に説明に出向いている。保育所施設の老朽化などを見ながら緩やかな統合を進めていくと聞いている。 学校がなくなると地域がさびれ、若者が帰ってこなくなり悪循環になるとの意見を聞く。 市も、地域を活性化し、働く職場を増やす施策を展開している。例として光ネットワーク整備がある。情報基盤を整備し情報格差をなくし、企業誘致を進め定住促進を図るというもの。</p>

④ 教育長から

	<p>保護者の皆さんにも自主的に集まっていただき、甲田町で学んでいる子ども達にとって、今考えられるより良い教育環境はどうあるべきかを、積極的に議論いただきたい。</p> <p>子ども達に、統合についての意見を聞くことも一つの方法とも考えるが、発達段階にある間は大人が責任を持って、今考えられるベストの教育環境を考えていくことが責任であると思う。そして、それぞれの立場で、子ども達が納得できるよう話をしていけばよいと考える。</p> <p>準備委員会を作ると必ず統合しなければならないということでもない。準備委員会で、保護者や地域でどういう統合が良いかを意見交換していただき、結果が時期尚早という結論になるなら、現状のまま小学校運営をしていく。</p>
--	---

	<p>いつまでも、保護者対教育委員会という形の話合いではなく、保護者間でしっかり甲田町内の理想的な教育環境を議論していただきたい。その場として、準備委員会を立ち上げることも考えていただきたい。</p>
--	--

小学校の配置計画

平成25年1月7日推計

安芸高田市も少子高齢化が進み、平成24年度の国の学級編制基準によると、平成30年度には、市内13小学校のうち5校が複式学級のある小学校となるものと予想される。

こうした状況において、多様な価値観を育みお互いが切磋琢磨できる教育環境を整え、より教育効果を高めるためには、複式学級を解消し、可能な限り1クラス20人以上の学級が確保できるよう、学校配置の見直しを行う必要がある。

《平成30年4月》

平成30年度に複式の学級編制になる学年

本来なら複式学級編制であるが、県の加配措置によって、複式学級が解消される学年

学校名	児童総数	1年生			2年生			3年生			4年生			5年生			6年生		
		人数	学級数	平均人数	人数	学級数	平均人数	人数	学級数	平均人数	人数	学級数	平均人数	人数	学級数	平均人数	人数	学級数	平均人数
吉田小	366	56	2	28	73	3	24	51	2	25	64	2	32	50	2	25	72	2	36
可愛小	143	18	1	18	22	1	22	17	1	17	22	1	22	34	1	34	30	1	30
郷野小	45	4	1	4	7	1	7	11	1	11	8	1	8	5	0.5		10	0.5	
刈田小	65	15	1	15	11	1	11	11	1	11	12	1	12	6	0.5		10	0.5	
根野小	115	22	1	22	20	1	20	20	1	20	12	1	12	21	1	21	20	1	20
美土里小	111	18	1	18	15	1	15	14	1	14	21	1	21	23	1	23	20	1	20
川根小	17	3	0.5		1	0.5		3	0.5		7	0.5		0	0		3	0.5	
来原小	48	3	1	3	6	1	6	10	1	10	9	1	9	11	1	11	9	1	9
船佐小	43	6	1	6	5	1	5	4	1	4	15	1	15	8	0.5		5	0.5	
甲立小	65	18	1	18	7	1	7	11	1	11	12	1	12	10	1	10	7	1	7
小田小	41	5	1	5	7	1	7	7	0.5		7	0.5		9	0.5		6	0.5	
小田東小	102	20	1	20	16	1	16	20	1	20	18	1	18	12	1	12	16	1	16
向原小	139	28	1	28	20	1	20	20	1	20	22	1	22	23	1	23	26	1	26
合計	1,300	216	13.5	16	210	14.5	14	199	13	15	229	13	17	212	11	19	234	11.5	20

校名は仮称です

学校名	児童総数	1年生			2年生			3年生			4年生			5年生			6年生		
		人数	学級数	平均人数															
吉田小	366	56	2	28	73	3	24	51	2	25	64	2	32	50	2	25	72	2	36
愛郷小	188	22	1	22	29	1	29	28	1	28	30	1	30	39	1	39	40	1	40
八千代小	180	37	2	18	31	1	31	31	1	31	24	1	24	27	1	27	30	1	30
美土里小	111	18	1	18	15	1	15	14	1	14	21	1	21	23	1	23	20	1	20
高宮小	108	12	1	12	12	1	12	17	1	17	31	1	31	19	1	19	17	1	17
甲田小	208	43	2	21	30	1	30	38	1	38	37	1	37	31	1	31	29	1	29
向原小	139	28	1	28	20	1	20	20	1	20	22	1	22	23	1	23	26	1	26
合計	1,300	216	10	21	210	9	23	199	8	24	229	8	28	212	8	26	234	8	29

複式学級：隣り合う2つの学年で一定の人数に満たない場合、2つの学年で1つの学級を編制する。

1年生を含む場合、つまり1・2年生の場合は、合計8名以下なら、1・2年生の複式学級となる。

2年生以上の組み合わせ、2・3年生、3・4年生、4・5年生、5・6年生は、合計16名以下の場合複式学級となる。

ただし、2・3年生、4・5年生の組み合わせは、学習段階が異なるため変則複式といい、県が教員を加配して単式学級にしている。

13. 来原小学校区（高宮町：来原小学校 PTA 保護者会）

① 開催日時：平成 25 年 1 月 25 日（金）19:00～20:30

② 参加人数：23 名

③ 会場からの質問・意見の概要

意見・質問の主旨	回 答
いつになったら話がまとまるのでしょうか？	<p>平成 30 年の市内小学校児童数見込みによると、13 小学校のうち 5 校に複式学級があると予測している。高宮町においては、川根小学校全児童数 17 名、来原小学校 48 名、船佐小学校 43 名で計 108 名と予測している。</p> <p>来原小学校も平成 31 年度には複式学級も予測される。高宮町では 3 校全てで小規模化が進む。学校の統合にはメリットもあればデメリットもある。子ども達の教育環境を考えていただきたい。</p>
具体的に、どういう状況になったら「合意した」と判断されるのか？合意したかどうかは、どういう方法で判断するのか？	<p>この 2 年間、保護者・地域に説明に出向いているが、意見にも温度差がある。話し合いを続ける中で、合意を得るよう努力している。</p> <p>全員の賛成をいただくことには無理があり、話し合いを続ける中で、行政から準備委員会の立ち上げを提案したい。</p> <p>合意があったかの判断については、アンケート調査をして数字で判断している行政もあるが、市としては、皆さんで話し合っていたきながら、時期を見て準備委員会を提案したい。</p>
統合校の場所が議論されているが、それ以外の検討項目や統合までのスケジュールが見えてこない。順番に説明して欲しい。	<p>昨年 12 月に、統合に関し共通する質問について、現段階での回答集を学校を通じて保護者世帯に配布した。</p> <p>統合準備委員会には、これまでに出示された意見を参考とした、統合の基本計画原案を示して具体的協議に入っていただくようになる。準備委員会では多くの協議を行うために、2 年程度の期間が必要と見込んでいる。</p> <p>また、統合が決まったら、複式学級には教員を加配し、単式学級に戻して授業進度を合わす必要もある。このように、具体的な統合協議に入っても、実際の統合には 2 年程度は必要と見込んでいる。</p>
児童数が減り統合もやむを得ないとも感じている。統合における基本的事項が見えてこないことで不安にな	<p>子ども達の義務教育にとって一番良い教育環境とはどういう形であるかを考えていただきたい。</p> <p>具体をもっと知りたいという気持ちは分かるが、逆</p>

<p>る。今は統合校だけがきまっていて、残りは準備委員会でという事になっている。何がどうなるかが見えないので、賛成も反対も言えない。</p>	<p>にこれ以上の具体を示すことができない面もある。</p>
<p>準備委員会・専門部会の委員配分は、児童数割り・統合区域面積割り、どういう方法なのか？委員は組織の役員の充て職なのか？</p>	<p>委員については、それぞれの学校区から同数を予定している。 委員の選考については、各団体に委員の選出をお願いしたいと考えている。</p>
<p>保護者の合意といっても時間を要す。「統合準備」といえば、なかなか敷居が高い。 準備委員会の前に、各代表者が集まり基本事項について意見交換する場を作ることはできないか？ 説明会で具体的な質問が出ている状況なので、少しずつ積み上げることも必要であるし、具体的に成ればなるほど、他校と意見交換したい。</p>	<p>「準備委員会」は、学校の統合を前提とした会議にはなるが、具体的な協議が始まったとしても、途中で頓挫したり、止まる状況も現実的にはある。準備委員会を設置したからには、必ず何年か先には統合ということではない。 自主的に集まって話し合われるのに、資料が欲しいということであれば、材料として提供できるものは提供する。 3校での統合のケースの場合、3校のうち2校で合意がされたが1校が反対の場合、2校の教育環境を見たとき、前に向かう必要があると判断すれば、2校だけで進む場合も想定している。</p>
<p>スクールバスは3km以上と聞いているが、通学中途の状況、例えば人家がないとか、登校グループの人数が少ないとかの状況を考えるなど、距離以外での検討はされないのか？</p>	<p>現在は遠距離通学については3kmで試算し、3kmを超える児童は、公共交通が通っている路線は公共交通を利用した通学、通っていない学校区からの通学は幹線道路にスクールバスを運行するよう考えている。 来原小学校区では、現船佐小学校から道のりで3kmを超える児童については、地域を南から北に、県道・国道を経由するスクールバスを運行するよう考えている。児童が70名程度で、大型バスが2台必要と見込んでいる。幹線道路の何箇所かにバス停を設け、バス停から自宅までは徒歩通学となる。大型バスが必要になることや財政的制約で、家の門から学校までのスクールバス運行はできない。見守り隊に引き続き支援をお願いするなど、安全・安心な通学に最大限の努力を行いたい。 川根小学校においても、児童数により、スクールバスを検討している。</p>
<p>大型バスを小型バス複数にして、細かく対応してもらえないのか？</p>	<p>詳細については、準備委員会での協議となる。 しかし市内複数の統合区があり、同じ時間帯での登下校となる。バス車両・運転手の確保が必要であり、</p>

	<p>全てを小型バスで回ることにはできない。市全体を見ながらの検討になる。</p>
<p>バス通学費用の保護者負担が現在より高額になるなら困る。</p> <p>バスの乗降場所が、あまりに遠くなるのも困る。始業時間に間に合うように出るとなれば、今7時に家を出ているが、これより早くなるのは低学年には無理。</p> <p>通学に困る状況では、子育て世代も学校の近くに出してしまう。この計画は、何十年先をも見据えて作られたのか？</p>	<p>保護者負担については、市内の学校の統一という課題もあり、もう少し検討時間が必要。</p> <p>来原小学校ではバスの必要台数は2台と見込んでいるため、運行ルート・乗降場所を工夫することで、細やかな対応をしたい。</p> <p>学校統合による課題は、学校の位置と通学方法である。無用な混乱を避けるため、今回行政として責任を持ち、案を示した。</p>
<p>放課後児童クラブの場所や指導者はどうするのか？</p>	<p>準備委員会で協議していくことになるが、原案としては、統合校の敷地内か周辺に、希望する児童が通所できる規模を整備するというもの。</p> <p>高宮町では、統合校となる現船佐小学校の敷地かその周辺に放課後児童クラブを整備したい。運営者は現NPO法人で考えている。</p>
<p>来原小学校のブラスバンド、川根小学校の自転車・一輪車、船佐小学校の太鼓の扱いはどうなるのか？</p> <p>来原小学校のブラスバンドは、長い歴史があり、外部指導者を招聘している。クラブ活動になれば、校長や教育委員会の考え一つになってしまう。各学校の伝統は大切にしたい。</p>	<p>授業の一環として行っている各学校の特色ある教育活動を、どう新しい学校に生かすかは、準備委員会の教育振興部会で検討したい。</p> <p>特色ある教育活動は大切であると考えている。</p> <p>例えば郷野小学校のブラスバンドはクラブという形で行っているが、クラブ活動にすることにも、メリットもデメリットもある。</p> <p>教育振興部会で、意見をしっかりと聞き考えていきたい。</p>
<p>町単位で行っているPTA行事、市全域で行うPTA行事はどうなるのか？</p>	<p>学校統合により、主催者での工夫が必要になる場合も出る。</p>
<p>部活動の面から、中学校を先に統合すべきではないか？小学校の統合にこだわるのはなぜか？</p>	<p>中学校の部活動は教育課程の中であり、学校に配置される教職員数できまってくる。中学校もクラス数が減少し、配置教員数が減少し部活数が減ってきている。</p> <p>中学校の統合を先にすべきという意見については、一つの方法とも考えられる。中学校の配置数は2校とし、町をまたいだ統合となる。位置についても意見が大きく分かれることも考えられる。</p> <p>中学校の統合時期については、通学を始めとする課</p>

	<p>題の解決や、小学校で学校統合を経験した児童がまた中学校で経験するという子ども達の2重負担のこともあり、小学校統合の後、ある程度の期間が必要と見込んでいる。</p>
<p>来原小学校においては、1学年の人数は12・13名であるが、男女比率が偏っている例がある。 ある学年では11名のうち男子が2人、別の学年でも9名のうち男子が1名という状況がある。 同じ学年では同性との遊びができず、他の学年を待っていることもある。同性のもみ合いの中で力を付けるということは、教師の力ではどうしようもない。そうしたことが大切になる面もある。 子ども達の学校での生活環境を考えることも必要ではないか。</p>	<p>意見として傾聴。</p>

④ 教育長から

	<p>保護者の皆さんにも自主的に集まっていただき、高宮町で学んでいる子ども達にとって、今考えられるより良い教育環境はどうあるべきかを、積極的に議論いただきたい。</p> <p>準備委員会を作ると必ず統合しなければならないということでもない。準備委員会で、保護者や地域でどういう統合が良いかを意見交換していただき、結果が時期尚早という結論になるなら、行政で強引に統合する方法を取るつもりはない。</p> <p>登下校に保護者の送り迎えが増えている。不審者への対応など安全安心面もあるが、甘やかすという部分が出ているのではないか。通勤途中に、暗い中、通学している姿も見るが、こうした体験が今後の人生にとって、生きてくるものと感じている。行政においてやらなければいけない部分もあるが、子ども達が将来より豊かな人生を送るため、今、義務教育はどうあるべきかを、共に考えていきたい。</p>
--	---

14. 刈田小学校区（八千代町：刈田小学校 PTA 保護者会・校区内保育所・幼稚園保護者会）

① 開催日時：平成 25 年 2 月 8 日（金）19:05～20:30

② 参加人数：16 名

③ 前回の質問の回答

意見・質問の主旨	回 答
<p>現時点の刈田小学校の学校規模見込み</p>	<p>最新の資料による、平成 31 年度までの刈田小学校の学校規模の見込みを、資料により説明。 資料 1</p>
<p>根野小学校における急傾斜地崩壊危険箇所指定について、詳しい説明を求める。</p>	<p>資料により、根野小学校における急傾斜地崩壊危険箇所指定について経過を説明。 図上で調査をしたもので、現地調査を行わなければ危険かどうかの判断はできない。しかし、100%安全というものでもない。 資料 2</p>
<p>統合校の選考について、詳しい説明を求める。</p>	<p>資料により、八千代統合区における統合校の選考について、評価項目、両校の数値等、評価の方法について説明。 資料 3</p>
<p>美土里町における小学校の統合について、詳しい説明を求める。</p>	<p>資料により、美土里町における小学校の統合について経過を説明。 資料 4</p>

資料 1

平成 25 年 1 月 7 日現在
未定稿

学校規模の推移（普通学級）

※ 学級簿で推計（23・24 年度は教育要覧、その後の数値は学級簿：出生数による。
ただし、全員普通学級入学と見込む。）

※ 学級編制基準

平成 24 年度の基準：1 学級の編制＝小学校 1・2 年生は 35 人学級、それ以上は 40 人学級

※ 複式学級の編制

小学校の場合：2 つの学年で 16 名以下の場合（1 年生を含む場合は 8 名以下）

1. 刈田小学校

	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	計
23 年度	6	8	9	7	8	6	44 人
			複式学級		複式学級		4 学級
24 年度	11	6	7	9	7	8	48 人
			複式学級		複式学級		4 学級
25 年度	10	11	6	7	9	7	50 人
			複式学級		複式学級		4 学級
26 年度	6	10	11	6	7	9	49 人
					複式学級		5 学級
27 年度	12	6	10	11	6	7	52 人
		変則複式加配			複式学級		5 学級
28 年度	11	12	6	10	11	6	56 人
			複式学級				5 学級
29 年度	11	11	12	6	10	11	61 人
				変則複式加配			6 学級
30 年度	15	11	11	12	6	10	65 人
					複式学級		5 学級
31 年度	?	15	11	11	12	6	

資料 2

根野小学校における急傾斜地崩壊危険箇所指定について

1. 根野小学校の用地造成

- ① 昭和 60 年に、当時の国・県の構造基準により審査を受け認可を受けて、用地を造成
- ② 小学校の建築においても、建築確認を受けて校舎等の建築

2. 安芸高田市防災計画における「急傾斜地崩壊危険箇所（自然斜面区分）」

- ① 八千代町No.189 「小学校下」 斜面延長 160m、傾斜度 35 度、高さ 10m
- ② 八千代町No.191 「小学校上」 斜面延長 135m、傾斜度 40 度、高さ 30m
- ③ 別図のとおり

3. 平成 14 年 4 月広島県が「急傾斜地崩壊危険箇所（自然斜面区分）」として公表

4. 「急傾斜地崩壊危険箇所」とは＝「土砂災害危険箇所」の一つ

- ① 「土砂災害危険箇所」とは
 - ・ 土砂災害による被害の恐れがある箇所をいう。土砂災害の発生や被害の範囲について証明するものではない。
 - ・ 土砂災害危険箇所は、安芸高田市では平成 12 年に調査され線引きされたもので、土砂災害危険箇所の範囲外でも災害が発生する可能性があり、逆に、土砂災害が発生した場合でも、必ずこの範囲全てに被害が及ぶとも限らない。
 - ・ 「土砂災害危険箇所」には、「土石流危険渓流」、「急傾斜地崩壊危険箇所」、「地すべり危険箇所」があり、広島県内には合計 9,500 箇所ほどある。
- ② 「急傾斜地崩壊危険箇所」とは
 - ・ かけ崩れとは、地面に浸み込んだ水分が土地の抵抗力を弱め、弱くなった斜面が突然崩れ落ちることを言う。また、地震が原因で起きることもある。
 - ・ 傾斜度 30 度以上、高さ 5m 以上の急傾斜地で、その斜面が崩れた場合に被害が出ると想定される区域内に、人家が 1 個以上（人家が無くて官公署、学校、病院、旅館などがある場合を含む）ある箇所などをいう。県内には 6,300 箇所ほどある。

5. 「土砂災害危険箇所」と「土砂災害警戒区域・特別警戒区域」

- ① 「土砂災害危険箇所」とは
 - ・ 1/25,000 地形図上で土砂災害の恐れがある箇所を把握して公表することにより、県民の皆様には「土砂災害の恐れのある所」を公表し、土砂災害への備えや警戒避難に役立てていただくためのもので、法的な規制ではなく、土砂災害防止法に基づく区域ではありません。
- ② 「土砂災害警戒区域・特別警戒区域」とは
 - ・ 「土砂災害危険箇所」を基礎調査して、警戒を要する区域を法令に定める警戒区域等に指定し公表されています。
 - ・ 基礎調査は、現地測量や土石の到達範囲を計算し算出するなど詳細な調査が行われます。県内には多くの危険箇所があり、多くの時間が必要で、過去に土砂災害が発生した地域などから順次調査をして警戒を要する地域などの指定を行っています。

6. 「急傾斜地崩壊危険箇所」の防災上の位置づけ

「土砂災害による被害の恐れのある箇所」ではあるが、一般的な基準により、避難等が行われる。

- ① 避難の勧告・指示（一般的な基準）
 - i. 避難準備
 - ・ 気象予報等（警報等）が発表され事前の避難準備が適当なとき
 - ・ 災害の発生を覚知し、諸般の状況から災害の拡大が予想され、事前の避難準備が適当なとき
 - ii. 避難勧告
 - ・ 土砂災害警戒情報が発表された場合
 - ・ 状況の悪化により、事前に避難を要すと判断したとき
 - ・ 災害を覚知し、かつ、災害の拡大が予想され、事前に避難を要すと判断したとき
 - iii. 避難指示
 - ・ 避難勧告よりさらに状況悪化し、緊急に避難の必要があるとき
 - ・ 災害を覚知し、著しく危険が切迫し、緊急に避難を要すと認められるとき
 - iv. 市の発令
 - ・ 上記の基準により、発令する
 - ・ 土壌雨量指数・降雨予測を踏まえて、地域単位で判断し発表

- ② 「土砂災害警戒情報」とは

大雨警報中において、実況雨量及び気象庁が作成する降雨予測に基づいて算出した降雨指標が監視基準に達したときに、市町ごとに発表。

- ③ 「大雨警報」の発表基準
 - i. 広島地方気象台の発表基準

雨量が、1時間雨量 70 mm以上か土壌雨量指数が 140 以上になると予想される
とき。

雨量の観測点は、現在は市町で警報が出るため、市町のどこかにおいて予想
される場合は、**市町全体に警報**が出る。

ii. 震度 6 弱以上地震が発生した後の基準

雨量が、1時間雨量 30 mm（ただし総雨量 60 mm）以上か、3時間雨量 55 mm以
上か、24時間雨量 90 mm以上になると予想されるとき。

雨量の観測点は、現在は市町で警報が出るため、市町のどこかにおいて予想
される場合は、**市町全体に警報**が出る。

iii. 震度 5 強の地震が発生した後の基準

雨量が、1時間雨量 40 mm（ただし総雨量 80 mm）以上か、3時間雨量 70 mm以
上か、24時間雨量 120 mm以上になると予想されるとき。

雨量の観測点は、現在は市町で警報が出るため、市町のどこかにおいて予想
される場合は、**市町全体に警報**が出る。

④ 雨量のデータ

実況雨量および降雨予測については、**安芸高田市内に 16 か所**（八千代町では
八千代支所と土師ダム）ある観測所データと雨雲レーダーなどの情報を基にし
た解析雨量によっている。1 km²メッシュで解析され、**安芸高田市内の 1 部分が
基準を超えれば、市全域に警報等が発令される。**

7. 学校の休校基準

- ① 台風接近により、朝 6 時の時点で警報が発令されている場合は臨時休業。
- ② 大雨、洪水警報等が発令された場合は、学校長の判断により休業等の措置
- ③ 台風の接近など災害の発生が予想される場合は、教育委員会から指示する場合
もある。

8. 避難場所

上根集会所（上根 1225-2、収容可能数 196 名）

9. 直近の大雨の例

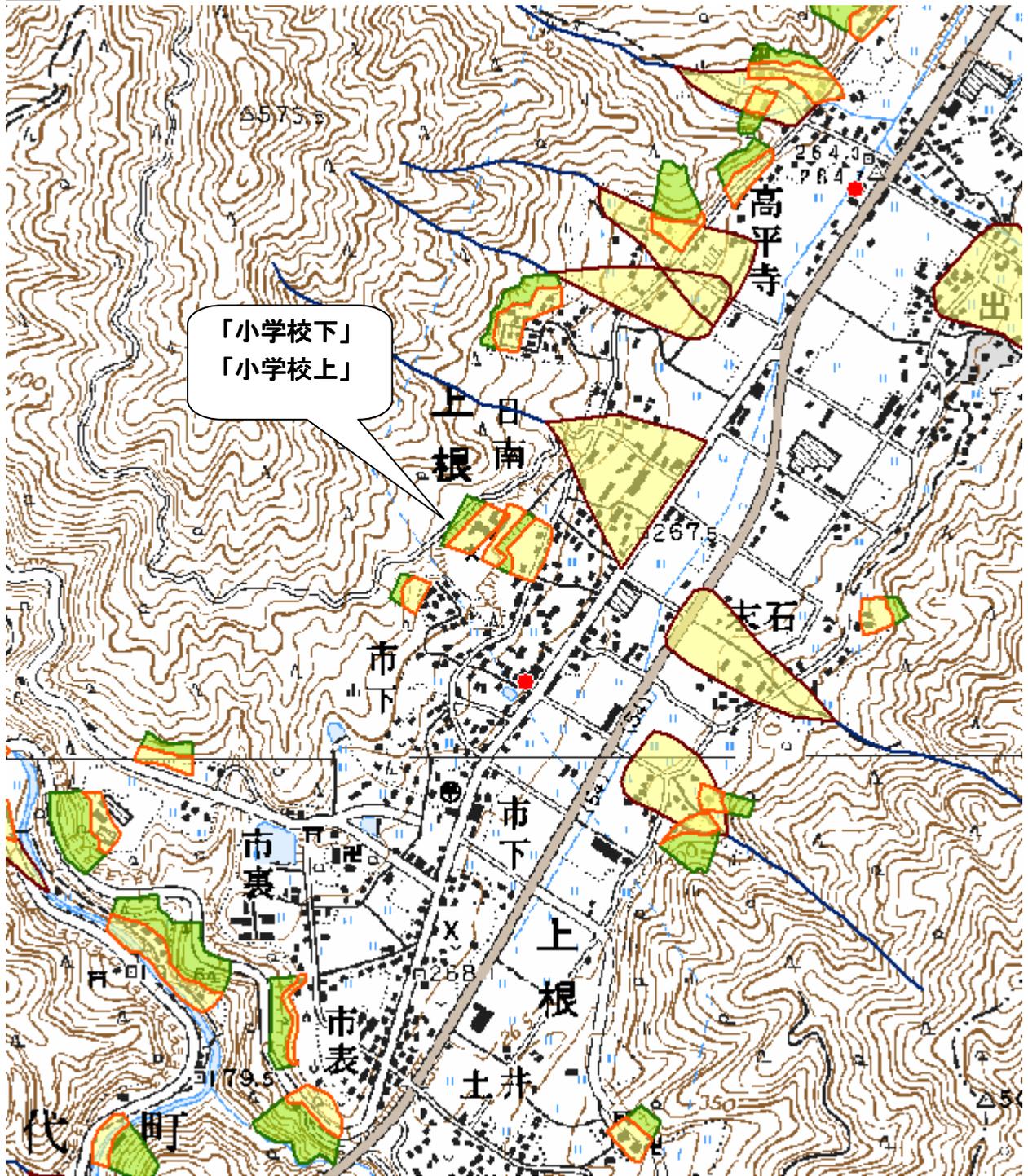
平成 18 年 9 月 16 日～18 日

台風 13 号による豪雨

連続雨量 239mm、時間雨量（16 日 23 時からの 1 時間）55mm

根野小学校に対する災害記録なし

別図



資料3 統合校の選定表
八千代地区

評価項目		評価目的	評価の基準がある場合の数値	刈田小学校の数値	根野小学校の数値	評価の方法
大項目	小項目					
児童数	平成28年度児童数	計画期間末の児童数		50人	91人	多いほうが評価が高い
将来児童数	小学校区内の20代人口	計画期間後の児童見込み		144人	208人	多いほうが評価が高い
学校の位置	位置	統合後の学区全体からみた位置				中心地が評価高い
	学校生活の利便性	地域での中心地		医院、郵便局	医院、郵便局	病院(医院)、図書館、市役所支所、郵便局が近隣に多いほうが評価高い
通学	通学総距離	平成28年の児童の総通学距離		児童数50人	児童数91人	少ない方が評価高い
	通学路の安全性	安全安心の確保		国道	県道	国道等、河川沿いの利用は評価低い
校舎	校舎の老朽度	大規模改修がいつ必要か	建築後20年(国の補助金基準)	S58,12(RC)	S63,2(RC)	新しい建物が評価高い
	耐震性	耐震工事が必要か	S56年法改正	新基準	新基準	耐震新基準による建物が評価高い
	保有教室面積	統合後の教室の増築必要性	6学級×74㎡以上(国の基準)	1,115㎡	1,043㎡	基準以下だと評価低い
	校舎面積	統合後の増築必要性	6学級2,468㎡(国の基準)	2,190㎡	2,144㎡	基準以下だと評価低い
体育館	体育館の老朽度	大規模改修がいつ必要か	建築後20年(国の補助金基準)	S56,5(RC)	S63,3(S)	新しい建物が評価高い
	体育館面積	統合後面積は十分か	6学級894㎡(国の基準)	694㎡	756㎡	基準以下だと評価低い
プール	プールの老朽度	大規模改修がいつ必要か		S47.7	S47.3	新しい施設が評価高い
敷地	校地面積	増築等が可能か		10,162㎡	17,596㎡	面積多いほうが評価高い
	校庭面積	統合後面積は十分か	240人以下2,400㎡	6,956㎡	8,427㎡	基準以下だと評価低い
	敷地形状	利便性は良いか		平坦地	傾斜地、別敷地	傾斜地、敷地分断は評価低い
自然環境	自然環境条件	騒音、日照、空気等の環境		良い	良い	環境により判断
	災害	災害発生の可能性			がけ崩れ	浸水区域、土石流・がけ崩れ区域等は評価低い
その他	その他評価項目			なし	なし	学校特有の評価項目は加味

資料 4

美土里町の小学校統合の資料

H25. 2. 8

●【旧4小学校の跡地(施設) 活用状況について】

旧小学校名	校舎処分の内容	現在の様子	現在の管理方法
本郷小学校	解体	本郷地域活動拠点施設 (基幹集会所)	本郷地域づくり協議会が 指定管理
生桑小学校	校舎を転用し、 そのまま利用	生桑地域活動拠点施設 (基幹集会所)	生桑振興会が指定管理
北小学校	解体	北地域活動拠点施設 (北振興会館)	北振興会が指定管理
横田小学校	解体	横田地域活動拠点施設 (美土里高齢者コミュニティ センター)	横田振興会が指定管理

●【美土里小学校の通学形態と通学費補助について】

区 分	担当課
3キロを超える児童 ……定期代を100%補助 (児童92名分)	教育委員会
水曜日は下校時間が早く定期路線がないため、スクールバスを運行 月火木金の14:20～15:20に必要な場合、臨時バスを運行	政策企画課
登下校から路線バスに1時間以上差異がある場合、臨時バスを運行	

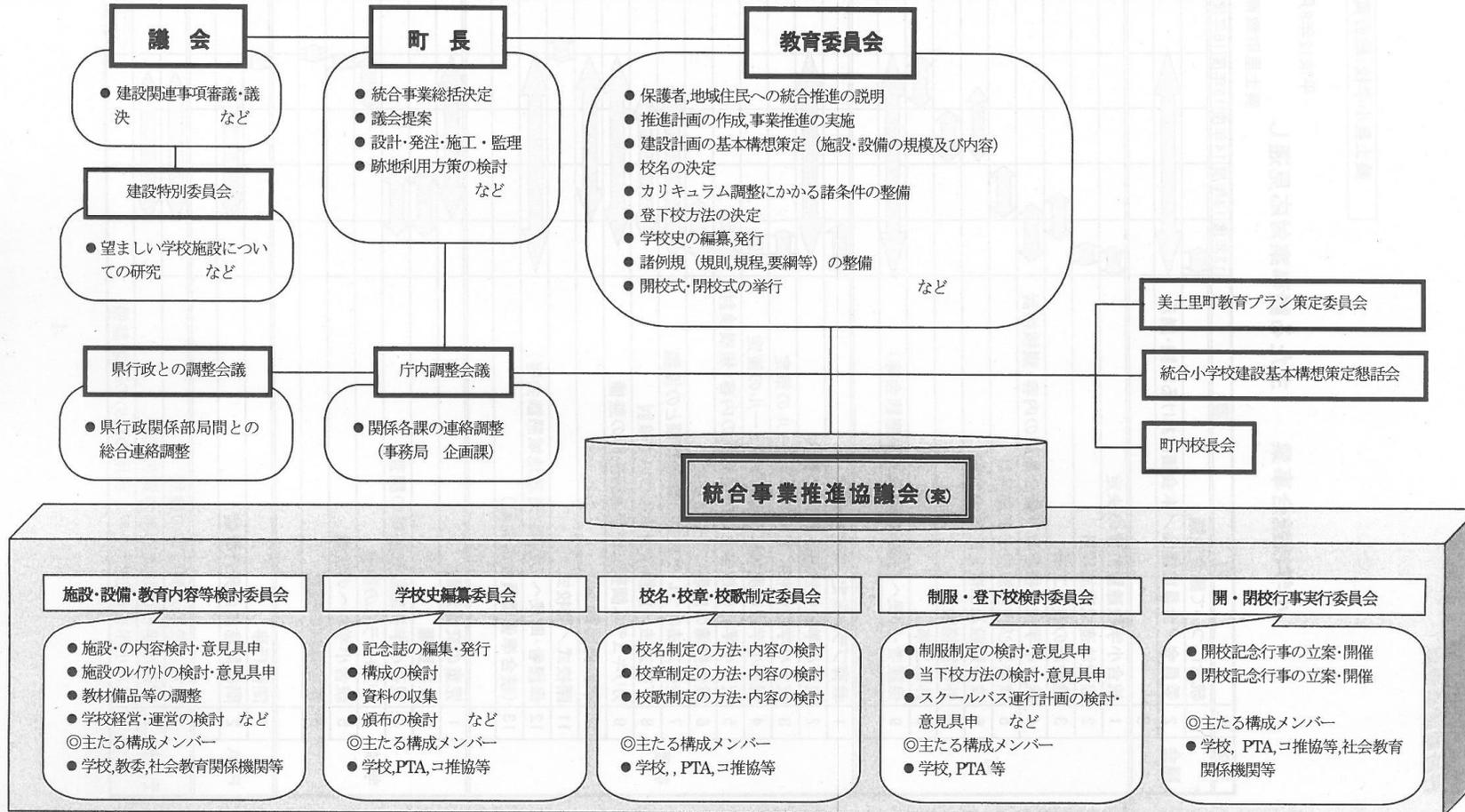
●【美土里小学校における学校統合のメリットとデメリット】

*平成 24 年 11 月 21 日 川根小学校 PTA 説明会での教育長答弁から

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ・ 統合により一番良かった点は、人間関係・学力・体力が大きく向上したこと。 規模が大きくなり人間関係が心配されたが、子ども達は柔軟で、関係が広がっても、ちゃんと付き合っていけることを教わった。 ・ 学力についても、子ども達が切磋琢磨、刺激し合う中で、自らを高め合っていた。小規模がだめということではないが、子ども達にとって適正な集団規模というものは必要だと感じた。 ・ 体力については、芝生の校庭ということもあるが、子ども達が同学年・体力が同じ子どもたち同士で思い切って遊ぶことにより、体力も伸びたと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題とすれば、地域の高齢者から「子どもがいなくなり地域が寂しくなった。」「地域の文化の拠点がなくなった。」との声を聞いた。 学校が地域に出て行く教育活動を進めることで、ある程度は解消をしていった。 ・ もう一つの課題は、通学手段の確保があった。 課題解決に向けては、家庭・地域・学校・教育行政それぞれの役割の中で協力し合えば、良い知恵も生まれてくると考えている。

小学校統合事業推進組織及び所掌内容

美土里小学校：資料



平成12年9月調整

小学校統合事業 主たる諸事案対応見通し

美土里町教育委員会

主体	No.	内 容	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
議会	1	統合について議会決議	→					
	2	委員会／全員協議会／本会議における審議・議決	←→	←→	←→			
	3							
町	1	統合小学校建設位置の決定	→					
	2	建設地造成実施設計	→					
	3	建設地の造成工事		→				
	4	統合小学校の校舎及び複合施設の内容・規模検討	←→	←→				
	5	校舎及び複合施設の実施設計		→				
	6	校舎建設及び複合施設の建設			←→	←→		
	7	外構実施設計			→			
	8	外構工事				→	→	
	9	保護者・町民への説明(町政地域懇談会等)	←→	←→	←→	←→		
教委	1	教育プラン策定(策定委員会)	←→					
	2	統合小学校建設基本構想懇話会	←→	←→	←→			
	3	統合小学校開校に至るスケジュールの策定	→					
	4	現存小学校の廃校に至るスケジュールの策定	→					
	5	統合小学校の校舎及び関係施設の内容・規模検討	→	→				
	6	設備整備の内容について検討	→	→				
	7	登校方法について検討／関係機関との協議	←→	←→	←→	←→		
	8	下校方法／放課後対策について検討	←→	←→	←→	←→		
	9	カリキュラム調整にかかる諸条件の整備	←→	←→	←→	←→		
	10	学校史編纂		←→	←→	←→		
	11	閉校式／開校式					→	
	12	保護者・町民への説明(町政地域懇談会等)	←→	←→	←→	←→		
	13	(統合準備委員会の発足)						
学校	1	児童の交流活動		←→	←→	←→		
	2	文書整理		→	→			
	3	現存小学校施設備品等の調査		→	→			
	4	カリキュラムの調整				→	→	
	5	統合小学校への移動				→	→	
	6	学校体制の確立				→	→	
PTA	1	閉校行事					→	
	2	閉校記念誌の発行準備		←→	←→	←→		
その他	1	校章／校歌／制服等の検討		←→	←→	←→		
	2	現存小学校の跡地利用方策の検討		←→	←→	←→		
	3	現存小学校の跡地利用／利用のための環境整備					←→	←→

統合小学校開校までのスケジュール表(美土里町) H14.4~H16.3

美土里小学校 統合資料

	校歌・校章・校旗・校訓・PTA規約	制服	通学形態	備品・図書	閉校式・開校式	学校史編さん	事務関係	建設関係
H14. 4	4/22 学校経営・教育課程部会 ①校名:「美土里小学校」 ②校章・校旗:「公募する」 ③校歌:「公募を含め専門家委託等検討する」 ④校訓:「教職員で策定する」 ⑤教育課程:「教務主任会議で調整する」	4/22 保護者アンケート集約の確認 ・制服着用で検討	4/16 備北交通網と通学方法の協議	・現有備品・図書調整			・公立学校施設整備費 国庫負担金事業認定申請検収	・本郷小学校老朽度調査業務委託
5	5/21 教育課程の調整(教務主任会議) 5/20 校歌・校章の策定方向検討	5/24 制服の方向での取りまとめ	5/30 備北交通網と通学方法の協議 集約	・現有備品・図書調整				・校舎、講堂建設工事 入札指名業者現場説明
6	6/13 教育課程の調整(教務主任会議) ・校歌の制定依頼 ・校訓(案)検討 ・PTA規約検討	・制服着用以内定	6/13 備北交通網と通学方法の協議	・現有備品・図書調整	6/4 福祉区代表者会議に閉校式の挙行計画の旨協議	6/26 各学校区学校史編纂関係者打合せ	・公立学校施設整備費 国庫負担金事業認定決定 ・同上国庫負担金交付申請	・校舎、講堂建設工事入札執行 清水建設(株)広島支店落札 ・契約の町議会議決 (工期:H14.6.18~H15.7.31)
7	校章の公募開始 校章制定デザイナーの決定	・制服(標準服)決定:経過措置を考慮する ・標準服の選定開始	7/3 備北交通網と通学方法の協議 7/26 "	・現有備品整備 台帳作成 ・図書の整理				・起工式挙行, 工事着工, 管理業務委託 ・本郷小学校老朽度調査実施
8	校章の公募 8/30 教育課程の調整(教務主任会議)		通学形態の調整・整理	・図書の整理				
9	校章の公募終了 ・選定委員会1次審査 ・選考委員会2次審査 ・デザイナー修正 ・校章の決定	・標準服の決定	通学形態の調整・整理:一部決定	・図書の整理 ・備品購入計画調整				・屋外環境施設整備設計 業務委託(グラウンド等外構設計)
10	・デザイナー修正 ・校章の決定		スクールバス購入補助申請	・図書の整理 ・備品購入計画調整				
11	校章・校旗製作発注		・スクールバス運行計画樹立 ・へき地児童生徒援助費等補助金交付申請	・図書の整理 ・備品購入計画調整				
12	校歌決定 校訓・PTA規約決定 校歌吹込み		・スクールバス購入発注	・図書整理完了		・各学校区毎希望冊数集約 町内、町外別(無料, 有料別)		
H15. 1	校章・校旗納品 学校経営計画策定 校歌練習		・スクールバス購入	・備品購入計画完了				
2	校歌練習		・スクールバス運行業務委託 ・契約 ・運行シミュレーション ・スクールバス車庫完成	・図書備品一部異動	◎各学校閉校式 ◎閉校記念行事		・公立学校施設整備費 国庫負担金事業実績報告	・屋外環境施設整備設計 業務委託完了
4	◎美土里小学校開校 (旧本郷小学校)		◎スクールバス運行開始				・屋外環境施設整備費 国庫補助事業認定申請検収	
5								
6							・屋外環境施設整備費 国庫補助事業認定決定 ・同上国庫補助金交付申請	・屋外環境施設整備工事 (グラウンド等外構工事)着工
7								◎校舎、講堂建設工事完了
8	新校舎開校準備 校歌CD納品			◎書籍、図書、備品等新材倉庫搬入		・各学校区 学校史原稿提出		・完了各種検査
9	◎美土里小学校開校(落成式)				◎開校式, 落成式	・最終調整		
10						・印刷, 製本発注		
11						・印刷, 製本完了 ・納品		
12						◎学校史発刊(配送)	・屋外環境施設整備費 国庫補助事業実績報告	◎屋外環境施設整備工事完了 ・完了検査
H16. 1								
2								
3								

⑤ 会場からの質問・意見の概要

意見・質問の主旨	回 答
<p>地域へ説明するなど広い取り組みも必要ではないか？計画期間が5年間で、現在の小学校保護者会のほとんどは卒業してしまう。これから小学校に上がる保護者のため、地域には説明に出ないのか？</p>	<p>平成23年度は、計画を知っていただくために、地域・保護者両方に説明会を開催して来た。 平成24年度については、一番身近な小学校保護者の不安解消を目的に、小学校の保護者会に対して説明を行っている。今回の説明には、小学校区内の保育所や幼稚園の保護者も案内をして、これから小学校に上がる保護者の不安の解消も図ってきた。保育所独自の説明会も声かけをしているが、就学前の保護者参加が少ない状況でもある。</p>
<p>根野小学校敷地の現地調査について、県の現地調査を待たず、市独自で調査する予定はあるのか？</p>	<p>県の担当部署や専門家に相談している。一部補強の必要があるかもしれないとの意見を得ているが、現地調査を行わなければ詳細は出ない。 子ども達の安全安心の確保に向け、財政支出の必要もあるが、市長部局と相談し検討していく。</p>
<p>通学について一般的な回答がされているが、支援が必要な児童の通学についての具体策は？</p>	<p>支援の必要な児童の通学については、福祉サービスとの連携のもと、児童の個別の状況に合った通学方法を保護者と共に考えていきたい。</p>
<p>通学や放課後保育について具体的な説明がないと合意もできない。判断する材料がないと賛成できない。統合条件を具体的に示して欲しい。</p>	<p>24年11月末に、学校を通じて、これまでの説明会での共通する考え方を取りまとめて配布した。教育委員会での現在の原案を整理している。</p>
<p>合意とは、原点の「学校規模の適正化」という事に対する合意なのか、適正化計画全て及びこれまでの教育委員会の説明事項に対する合意なのか？ 統合校について、計画とは違い、八千代町の中心部に新しい学校を造る方向は可能か？ 統合に当っては、市内の統一基準を作る必要もあるが、準備委員会で地域の実情に合った議論ができるのか？</p>	<p>統合校については、計画期間内に小規模校の解消を図るため、実現可能な選択として示した。 地域の総意として、市の計画にある統合校ではなく、他を選択される場合は、行政としても重く受け止めたい。新しい学校となれば、広い敷地を確保する必要があり、財政的に厳しい。 準備委員会で、地域の実情を元に、詳細の協議をしていただくようになるが、具体的な協議となれば、足踏みもあれば途中で止まってしまう例もある。準備委員会の設置で、自動的に何年か後の統合が決まるものではない。 準備委員会の議論の結果として、八千代町においては、統合は時期尚早であるという結論になれば、尊重して、当分の間は現状の義務教育の形で行うという結果になることもある。</p>
<p>来年度に向けた取り組み、流れはどうなるのか？</p>	<p>今年度の説明会が終了したら、検証して、それを踏まえた来年度以降の方向をきめていきたい。 各地域の意見を尊重し、各地域の状況に合わせて、地域ごとに次の提案をしていきたい。</p>

	<p>準備委員会を設置すればすぐに学校統合という捉え方もされるが、地域における義務教育はどうあるべきか、とか通学や放課後保育について、保護者・地域としてはこうあって欲しいというようなことを議論する場として、準備委員会を活用していただくのも一つの方法である。</p>
--	--